

はそれは、共同主義で遣るが宜しい、即ち組合主義で遣るが宜しいといふのである。大農は資本を掛けてウント遣れ、昨日言つた通り五千町歩、一萬町歩、是は資本主義で遣り、合資會社でも何でも遣るが宜しい。けれども又小農は小農で互に共同して組合主義で遣るが宜しい。斯う云ふ風に今後の農事改良は資本主義と共同主義とで遣るが宜しい。併し實際歐羅巴には小農が多いのであるから、吾々はまあ共同主義で遣らうと云ふとを述べて居る。従つて私も此の事に就て御話をして行きたいのですが、共同主義と云ふのは取も直ほさず組合だと云ふことは申さぬでも分つて居る。歐羅巴では組合は非常に盛です。否日本でも追々と其筋の奨勵等に依つて盛であります。併し私の心配して居ることは、まだ日本では組合と云ふことの本當の趣意が分つて居らぬてはあるまいかと思ふ。のみならず歐羅巴に比べて見たならば組合の數も少なし、組合の發達も計畫も幼稚であるから、今日は前の方には組合の話を少し致します。……申すまでもなく組合と云ふものは初めは農業界には起つたことではないのであります。全く工業界に起つたことであるのです。十九世紀以來の發達であつて、最近百年以内に經濟の發達したと云ふことは工業の發達した事で、組合はそれが爲めに起つたものであります。さうして今農業組合を遣り出したの

は實は工業組合に眞似たのであると云ふことを言はざるを得ぬやうてあります。組合には御承知の通り二つあります。獨逸で一つはライファアイゼンと云ふ人の組合ともう一つはシュルツェと云ふ人の組合であり升。私共は今回十分の事を取調べる爲めに、此人等が初めて組合を拵へた所まで旅行致しまして、詳しく調査致しました。ライファアイゼンの組合の方は幾らか農民的である、即ち地方的である。シュルツェの組合の方は寧ろ農工的である、都邑であると云ふことを申します。併し今日はライファアイゼン、シュルツェ以上にもう一つ有名な獨逸の大組合即ちハース氏の組合が出来て居るのであります。此ハースの組合は無論農業のみではありませぬ。工業も農業も一切込めて居るのでありますけれども、併し獨逸であつても組合が非常な勢を以て發達したる初めは寧ろ純粹の農業よりも工業であつたと云ふことを言はなければならぬと思ひます。それが今は段々に農業に應用せらるゝやうになつたのであります。組合は獨逸が最も發達致して居ります。獨逸のことは日本に能く傳はつて居りますから今更茲には申しませぬが、獨逸に續きまして發達致して居りますのは、墾地利であります。墾地利に於きましては早くから特別な法律などが設けられて、頻りに組合が奨勵されて居ります。獨逸、墾地利に續いて

組合が盛であるのは佛蘭西であると思ひます。佛蘭西に於ても組合は非常に盛でありまして、大きな組合があります。一つは國民的聯合會と斯う云ふのであり、今一つは地方的聯合會と云ふのであります。此國民的聯合會と云ふ方には約八百程の組合が聯結致して居ります。それから地方的聯合會と申します方には約五百程の組合が結合致して居ります。それで其組合の數を申して見ますと、就中國民會の方には今日大方五十萬人程の百姓が組合員になつて居ると云ふことであります。又後に申しました地方會の方では約二十萬人が組合員になつて居ると云ふことであります。之を獨逸に比べて見ますとまだ幼稚でございますけれども、併ながら佛蘭西でも仲々負けず遣つて居ると云ふことが分ります。日本の人は兎角佛蘭西と云へばさう云ふことに於て劣つたやうに思つて居るが、今回行つて調査して見ると佛蘭西も仲々盛に遣つて居ると云ふことが分る。伊太利は御氣の毒ながら劣つて居ります。尤も日本よりは優してあるか知らぬが、萬事佛蘭西に眞似して遣つて居りますが、先づ大體日本と御同様な程度でせう。若し小さい國で組合の盛な所を申したならばそれは丁抹でありませう。丁抹は小さい國であると申しますが、今回丁抹に十日ばかり滞在して農商務大臣の世話で色々の組合や色々の農學校などを參觀調

査致しましたが、暫く一言で申せば丁抹の今日盛になつて居るのは組合の效である。組合學を實際研究しやうと思ふならば丁抹に行つたならば能く分る。一昨日も申した丁抹ではバター億圓、鶏卵でも年に千五百萬圓輸出する。其のバターや鶏卵などは何の御蔭でさう云ふ立派なものが出来て居るかと思ふと、さるさる組合の御蔭であるのです。御話が轉ずるやうですが、私の殊に感じましたのは鶏卵であります。鶏卵の組合では鶏卵は腐つたら仕様のないものであるから注意する。鯛は腐つても鯛だと言つて威張つて居るか知らんが、腐つても鶏卵だと言つて威張れる筈はない。それであるから鶏卵を輸出しやうと思へば、腐つて居るかどうかを吟味する。其吟味方が誠に面白い。日本で鶏卵を買ふ時には其良否を吟味するに斯う云ふとを遣る。鶏卵を日光に向けて覗く眞似をする。是を稱して鶏卵の望遠鏡と言ふ笑けれども、ね鶏卵の望遠鏡は甚だ當てにならぬ。大體は分るけれども、何分一國の隆盛を賭けて遣らうと云ふのには望遠鏡では追付かぬ。それではどうするかと云ふと、丁抹では鶏卵商の買集めたものを中央の組合の本部に持つて来る。それを一々機械で調べるのであるが、どう云ふ風に遣るかと思ふと、丁度正月に餅を焼くやうな四角な網、縦一尺五寸、横一尺位の長方形な網があつて、其網の下に眞中にと

四角にと都合五つの電燈があつてそれが明煌々と輝いて居る。其網上に卵を立てるのである。すると中は一點の曇り無く透き通つて見える。望遠鏡とは大變な違である。そこで昨日御話したやうに文明が進むと唯人間の眼や手では遣らないで學術の力を借り電氣を借る迄になる。昨日の話の通り電氣さへ掛ければ作物も何倍かの増収を見る。そこで鶏卵の検査にも電燈を使用して遣る。それで丁抹の組合の非常に盛なものであると云ふことは分かる。

所て一體組合とは何ぞやと云ふことの解釋を聞く人があつたならば、一言で御答をすることが出来る。組合は所謂共產主義ではないのであります。共產主義と云ふのは一個人の財産を皆無くしてさうして總ての者を一所に合はせてさうして一所に働いて、其中から分け前を貰ふて行かうと云ふ遣り方である。組合はさう云ふのではないのであつて、組合主義と云ふのが茲に別にあるのであります。組合主義は如何なるものであるかと云ふと、財産は依然、一個人の私有であつて、而して資本としては共同として働くのを稱して組合といふのです。吾々が色々調査した結果此原則は動かされぬのです。即ち組合では財産としては矢張り皆自己の財産であるのです。社會主義や共產主義の人が言ふやうに共有財産ではないのです。只だ資

本としては共同の資本がある。即ち私有財産にして而も共同財産の働をするのを稱して組合主義と云ふのです。今言ふ通り大資本の人は自ら別物であるけれども、小農の人は大資本を持たない、而も其の大資本と同様の働をするには組合の組織に依るのである。財産としては自分のものであるけれども、資本としては共同のものである。即ち私有財産を共同資本として働かすとそれが組合と云ふのである。是は何か六づかしい學問上の話の様で、百姓などが承はつても一向功能の無いことであると言はれるか知らぬが、此私有財産が共同資本であると云ふことが非常に大切な問題になるのです。それはどう云ふことで大切であるかと云ふて追々取調べて見ますと、組合の發達に三段あると云ふとが出来る。第一段はどう云ふものであるかと云ふと、第一段は組合以外の私有財産の方が多いのである。組合の共同資本として盡す所の財産より外の私有財産の方が多いのであります。第二段は其反對であつて、組合内に於ける私有財産即ち共同資本として提供されたるものが組合外に於ける私有財産より多いのであります。是が第三段になると、總ての私有財産は即ち組合の共同財産と云ふことになるかと云ふのです。此の段にては總ての私有財産即ち組合財産斯う云ふことになるのです。此所を稱して全く融合した融合團と

云ふのである。組合の發達は是非とも其處まで行かなければ本當の組合の目的に適はぬと近頃或る極端なる學者は言出した。そこで立戻つて日本はどう云ふ程度に居るか云ふと、無論第一番中の最も幼稚なものであつて諸君が組合をして居るからと言つても諸君の財産のホンの僅かの部分を出して組合をして居るのであつて、さうして諸君は依然組合以外に色々働いて居る。甚だしきは組合員でありながら餘も面白くないことを遣る。それは組合の規約に背いて冒險的に惡いことを遣る人々のあると云ふことを往々にして聞及ぶのである。兎に角日本の組合は組合内に提供されたる共同資本としての分量は極めて少ないのであるから、其點に於ても組合發達の未だ幼稚であるといふことを申すのであります。但し追々と進んで行きましたならば、別に社會主義たるの心配も要らず、別に共產主義の心配も要らず、組合に依つて恰も一大資本に依つて遣るが如き大きな事業を遣るとが出来るのであります。極端論は別です。尙ほ其事を外の語で申しましたならば何と云ふかと云ふと、即ち何時かも東京博文館發行の『太陽』に私が此事に就て長い演説をしてそれを書かせたのを載せて置きましたので、諸君も或は御讀みになつたらうと思ひます。それは其前に恐らくは學校教員諸君の御手許には或る筋から印刷物が廻はさ

れて、日本の國民性は、没我である、と云ふことを説いた印刷物が配附されたことと思ふ。私はそれを甚だ忌むべきことであると思つて、それを辯解する爲めに大學の大講堂に於て演説をして、それを『太陽』に掲載させたのであります。吾々の説きますのは、日本人は本來どう云ふ性質であると云ふ論は今時間が無いから言はぬが、兎に角吾々の是れから後の道德の原則は所謂ソリダリティーでなければならぬ。ソリダリティーとは、剃立ての坊さんと云ふ意味ではない。そんならばソリダリティーと云ふことは何んでございませうか、譯を附けて下さいと毎日催促を受けるけれども、どうも良い譯を見出さぬのである。だから覺え憎くければ剃立ての坊さんとても覺えて居れば宜い。西洋の語は誠に覺え憎いやうであるが、覺えて仕舞へば六づかしいことも何にもない。誰も今日はラムプを見て燈火と云ふ者はない。そんなとを云ふのは却つて面倒である。それでも初めはランプといふは六づかしかつたに違ひない。今日シャツを西洋襦袢と云ふものは無い……シャツと云ふので面白い話がある。獨逸の語でシャツと云ふと、御婦人の前では失敬であるが、色男と云ふとである。そこで或る人が初めて獨逸に行つた時に、ウツカリして居つてシャツと云ふ獨逸語が出て來なかつたことがある。で英語で下女に向つて、彼のシャツが出来て居るか

と聞くと、下女が大變ビツクリしたと云ふやうな話がある。是は一の落し話であるが、さういふことの心配の無いやうにと、唯お坊さんだの小僧さんだのと覺えられて居つても困るが、兎に角強いて譯しないで剃立てり位の所でソリダリテを覺えて居て貰ひたい。此の語は實際譯が附かぬのです。何故譯が附かぬのかと申しますとソリダリテと云ふことは元と佛蘭西から出た學問の語であつて、今英吉利でさへも本當に此處四五年位に使ふか使はぬ程であるから、日本に於ける英獨の學者は多く此事を口にせぬのであります。併しながら亞米利加などは餘程進んで居りますから、昨年出來て内務省とかて秘密に翻譯になつて其の筋の人に廻はした所の或る書物の終りには、ソリダリテが終局だと云ふことを書いてある。私共の考へるはに今後の道德は此のソリダリテであらうと思ふ。然らばソリダリテとはどう云ふことであるかと云ふと、斯う云ふことを言ふのです。自己の利益を忘却せず、自己の利益を忘れずして而して共同の爲めに盡すのである。諸君から見たならば、其の様な水臭いことを言ふものではない。共同の爲めには自己の事は忘れてさねばならぬ、と言はれるのであらうけれども、それは外所行きて、眞正の人情では

ない。尤も戦争に行つては自分の一身を忘れて君國の爲めに盡す、是は自ら別である。斯う云ふことは別問題であるが、平常自分が農村を改良するにしても、商業を改良するにしても、工業を改良するにしても、一緒になつて遣る總ての場合には自己の利益を忘れずして而して共同の爲めに盡す。詰まり己れを善くして又一般を善くすると云ふこととなければ、それ／＼働いて行けない。此のソリダリテと云ふことが二十世紀の最新の道德主義であるのです。私共でも矢張りさうです、人さんの爲めにと云ふと何にも利益などは要りませぬ、一切合切貴方の爲めに盡しませう、と言ひたいのであるが、しかしそれでは長く續かぬ。十日や其處等は續くかしらぬが、半年も一年も經つと、ドウモさう／＼人の世話も出來切れぬなどと言ひ出す。所が自分の利益も計ると同時にそれが公共の利益になるやうにすると、太だ便利であらう。諸君方も各、自分を十分に發達させて、さうして同時に大日本帝國を發達させなければならぬ。なんぼ日本が盛んになつても、諸君がヨイ／＼して居るやうでは困る。民に榮色ありと云ふやうなとでは困る。國も盛であるし民も盛でなければならぬ。諸君は自分として立派になり、さうして日本國としても立派にならなければならぬ。自分も立派になれ、國も立派にせよ。無論國民ですから國を立派にするの

は當然であるが、時に自分も立派にする、自分も立派にして國も立派にする、と云ふことが今後の道徳である。それより外に道徳はないと思ふ。詰り私共の身體などもさう云ふ風に出來て居ると云ふのです。吾々の心臓も強くなければならぬ、又肺臓も胃腑も筋肉も骨も皆強くて、さうして我身體が強くなければならぬので、身體がムク／＼太つて居ても、肺臓も心臓も弱いと云ふやうなのは困る。だから皆部分として強くて、さうして全體も強いと云ふやうに發達して居ることを望み、それを稱してソリダリテイと言ふのであります。此のソリダリテイの由來に就きましては『太陽』の本年の六月號に詳しく載つて居りますから、それを御覽を願ひます。又其中に別に出版する積りであります。此哲學で言ひ倫理學で言ひ又經濟學で言ふソリダリテイが即ち組合の原則である。組合の道徳はソリダリテイの道徳である。或る人々はそれを知らないから、或は沒我主義とか主我主義とか言ふたのである。詰り今までの學問にソリダリテイと云ふ語がなかつたなら、沒我主義とか何とか言つたが、私は今日茲に組合の原則はソリダリテイにあると云ふとを説くのである。何となれば組合は組合員の利益を計り、而して組合全體の發達を計つて行くのである。組合は悪くなくなつてもどうでも宜い、自分さへ善ければ宜いと云ふのでは、組合

は發達せぬ。組合員は組合の利益を忘れず、さうして全體の利益を計ると云ふのが主義であるとするならば、ソリダリテイの原則は能く御分りになると思ひます。是はもう少し外の語で申しますと、人には二つの心があると云ふのです。一の心を稱して社會良心と言ひ、一の心を稱して個人良心と言ふ、即ち良心に二つある。良心に二つあると云ふと、心が二つあつて誠におかしいやうに聞えるが、さう云ふ意味ではない。吾々が日本人として考へる時と、谷本一個人として考へる時と、自ら二つある。組合員として考へる時と一個人として考へる時とは、即ち社會良心と個人良心と二つある。此社會良心と個人良心とがうまい具合に調和した形を以てソリダリテイと云ふのである。兩方の調和した境界が組合が完全に發達したと云ふのである。我國でも組合は政府に於て頻りに御獎勵になるが、未だ十分に發達しないのは組合の原則が明かてなかつたからである。組合は今言ふ通り倫理學のソリダリテイ、心理學で言ふ社會良心と個人良心の結合で行くのであるが、もう一つ論を進めて注意せねばならぬことがある。今まで御話したことは組合は財産の組合であるやうに言つたが、そればかりではないのであると云ふとを近頃歐羅巴の學者が喧ましく言ふ。組合の組合たる所は人人の財産を組合はすからと言ふのでない、勞力を組合は

すのである。否、努力を組合はすと云ふのも未だし、組合の組合たる所は意思、努力を組合はすのでなければならぬ。なんぼ財産を出したり、なんぼ野ラに行つて働いて見ても、意思、努力の點に於てウンと結合して居らなかつたならば、それは甘く出来ぬ。組合の組合たる所は外に於ては財産の組合、努力の組合であるが、内に於ては意思の組合、努力の組合たる所にあるのである。組合は財産の組合でなくて、努力の組合である。外面は財産の組合であるが、内面の根本は意思、努力の結合である、と云ふと、諸學者が云ふて居るのである。斯うして見れば、社會主義とか何とか言ふ心配はないので、今後はソリダリティーで遣つて行かなければならぬ。これが恐くは二十世紀の仕方である。どうか政府も色々組合を奨励して遣つて居られるが、徒に政府の奨励を待たずして、諸君自らが意志、努力をして遣つて行かなければならぬ。内務省や府縣廳に於ても盡力されることを懇望しますが、併しそれに依頼して居るやうなことは困る。獨逸でも墾地利でも佛蘭西でも勿論盛に政府が努力して遣つて居るが、併し政府が遣るからと言つて、人民は政府にばかり頼んで居る譯ではない。どうか二十世紀の農事改良の法は全く組合に依る外なし、全くソリダリティーに依る外なしと云ふと、十分御分りになつて、各自自發的に御奮發を願ひたいのであります。

政府の保護も結構であるが、政府の保護あるが故に組合ふのでなく、組合はざるべからざるが故に組合ふのでなければならぬ。是が農事改良の根本原則として御話したのである。昨日言つたやうに學問が立派に出来ても、機械が立派に出来ても、それだけでは往かぬのである。

○尙餘まつて居る時間では、昨年第一回萬國農業團體及び地方民政學大會に於きまして議決した十箇條程の事柄を御話するが、今回の講演には相應はしいと思ひます。何となれば先刻も言ふ通り、チボーク氏の言葉に照らしても、該會は全く小農を保護すると云ふことが主義であつたから、今まで縷々述べた小農論に補ふて、其十箇條の議決のことを讀上げ……ては詰らぬが、多少面白く尾緒を付けて分るやうに御話をして御参考に供することが當然であると思ひます。是は私が實際に會議に參列し、會員として副會長として聞いて來たことで、未だ外の人に傳はつて居らぬことであるから、諸君に御紹介する必要がある。今までの理論、あとは實際問題であります。

さて第一箇條に申しますことは、各町村各郡各縣に於て組合の聯合會を設けると云ふことを希望する。組合ふたばかりでは組合の機能が薄い。組合は聯合會にな

ることに依つて機能があるのであるから、各町村にも聯合があり、各郡にも聯合があり、各縣にも聯合があり、更になほ進んでは全國にも聯合會があり、なほ今一つ進んでは萬國農業聯合會の出来ることを本會は切望する。一國內の聯合會ばかりでなく、萬國組合の聯合會が出来るやうに希望すると云ふとてありました。て先日御話ししましたやうに、英吉利の農務大臣の話もあつたのであります。が英吉利では組合が少くない、併しなら幾らかある。其組合を聯合ささうと思つて農業組合組織協會即ちアグリカルチュラル、オーガナイジング、ソサイティーと云ふものが出来て、頻りに組合の聯合を努めて居ると云ふとてあります。組合は聯合しなければ機能がないのであるが、萬國組合聯合と云ふことを唱へたのは、先刻言つた獨逸のハース氏である。ハース氏は獨逸組合の總體の親玉で而して萬國組合聯合會を初めて首唱しました。即ち千九百四年にブタベストで農會があつた時に此事を唱へたのである。其事が千九百六年に瑞西のリュツェルンの學會で成立し、千九百七年即ち今から四年前に初めて萬國農會の端緒が開かれまして、それに加はりましたのが第一が獨逸で、それから奧地利で、それから瑞西、伊太利である。獨逸、瑞伊の此四箇國が先づ加はり、それから後に佛蘭西が加盟し、和蘭、セルビヤ、フィンランドと段々と擴がつて居りますが、

なほまだ加らぬ國があるので、萬國悉く加はつて貰ひたいと云ふ議論である。日本は餘り遠く離れて國情が違ふから、それに加はるべきか否かは今後の問題である。兎に角組合は組合を起しただけで機能がするのでなく、組合が聯合するので組合の機能がするのであるから、どうか組合御熱心の諸君は此點に努められんとを御頼みして置きます。今回の此の講演會には學校教員のみでなく、實業に關係のある方が澤山出席せられてあると云ふことを聞いて大に喜んで居るのであるが、どうか組合に御熱心であるならば、組合と云ふものは單獨では其效をなさぬのであつて、どうしても聯合をしなければならぬと云ふことを呉れ、くも申して置きます。

第二箇條は曾て述べましたやうに各師範學校、殊に女子師範學校及び高等女學校に、是非とも農事教育の、一科を置いて貰ひたい。尙望む所は小學校から矢張り農事の趣意を十分了解して貰ひたいと云ふとてあります。それが一番農民の田舎落ルラル、エキソダスダスを防ぐ良法であると云ふこととてありましたが、其の事は必ずしも鋤鋤を取る法、田植の法を教へるばかりでなく、第一は農事と云ふことが最も立派な仕事である、即ち田園生活と云ふものが貴重なものであると云ふこと、それから又農民と云ふものにして初めて自由があり獨立があると云ふこと、工場に備はれて居る

者は規則で縛られて自由なり獨立なりと云ふものがないが農民は自由獨立であると云ふこと。それから農民と云ふものは國家の根本を成すものであつて、一箇人としても社會としても極めて有益なものであると云ふこと。農民は誠實なる所のものであると云ふやうな、さう云ふ點を縷々頭の中に注込んで貰ひたいと云ふこととございました。是は昨日も色々デベラージュとかマリヤンゴローと云ふやうな人の話を述べたから今日は略します。

第三番目は是も實際問題であります、農産物販賣の組合を設けよと云ふこととあります。で、農業を改良するには農産物販賣の組合が出来なければ、どうしても農業の發達は出來ない。農業改良の一手段としては農産物販賣の組合を設けやう。若し出來得べきことならば生産組合と消費組合と云ふものは常に聯合を取るやうにして、大農業消費組合と云ふやうなものを設立することを希望すると云ふこととございました。此事に就きましては大分獨逸でも調べましたが、殊にハンブルグあたりには於ける消費組合の大きなことは驚いたものである。併しながら不幸にして商人本位であつて農業本位の所はまだ少ない。仍て農業の販賣組合即ち消費組合と生産組合と相結び附けると云ふことが、第三箇條の議決でございます。

第四箇條は畜産改良——畜産と云ふのは重もに牛馬羊豚を言ふのであるが——此畜産改良の爲めに共同一致して組合を設けると云ふことであるが、是は私の今回調査した所では丁抹では盛に遣つて居る。第一は種を吟味するのである。其の次に交尾時期を定めて決して妄りに交尾をさせない。それからそれに遣る飼料の具合、牧場の具合も仲々喧ましいのである。丁抹へ行くと非常に廣い牧場があつて、そこで多くの牛を飼つて居るが、殊に種牛を交尾させることが非常に喧ましいので、良い結果を得たものには政府が賞金を與へる。一體丁抹では日本と違つて組合には政府は保護を與へて居らない。それで丁抹の組合は獨りてドン／＼發達して行つて居るが、唯だ畜産組合だけに對しては政府は保護して居る。

それから第五番は農業保険を盛にすると云ふこととて、御承知の通り歐羅巴では今日保険が盛である。尤も日本で保険と言へば或は辯口で以て他人の臍線金を卷上げるものやうに思はれて居るが、保険にも色々あつて、殊に西洋には工場保険と云ふものがある。工場に従事する人は怪我をし易いから怪我をすると一定の保険金を貰ふ。其所謂工業保険を擴げて農民にも矢張り農場で怪我をするとか云ふやうなことがあつたならば例へば、鍛て足を怪我したとか、或はどうかすると手を挫いた

とか野ラで働いて居つて怪我したと云ふやうな場合に於ては、矢張り怪我保險をして遣つたら宜いと云ふのが一つ。二つには、火災保險をする必要がある。農業に取つては火災保險がなか／＼必要である。瑞西で或る技師の人と歩きました時に、西洋の家は石造である。それに何故火災保險の必要がありますかと聞いて見ると、瑞西では所謂酪農であるから牛に食はず牧草を澤山積んである。其枯草に火が出ることが往々ある。だから西洋農家の火災保險と云ふのは、牧草の火災保險であると聞いて、成程と合點しました。其次にはどう云ふ保險かと云ふと牛馬の疫病の保險である。人間ばかりの保險でない。牛馬の病の保險である。それから雹や霧の保險である。冬になると雹や霧の害がある。どんな雹が降るか、と云ふと、小石見たいなものが降る。それで瑞西邊りでは葡萄園が澤山ある。其葡萄の上の小石見たいな雹が遠慮なく降るから、忽ち葡萄の不作を來して農民が苦しむ。それを今は保險で防ぐやうになつたのである。尤も昔と雖も防ぐ方法が無いてはなかつた。どうして防いだかと云ふと、是は古人のしたことは強ち悪く言はれぬと云ふ一例になるが、昨日も電光と作物との關係の御話をしたに就て、講演の後で或る人が雷の大きく鳴つた年はキツト豊年であるから尤もぢやと言はれたが、實際昔の人の話とて馬鹿にならぬ。

日本で雨乞をする際に高い山で火を焚くと必ず雨が降る。其證據に私の國で八幡様の祭(九月十五日)に花火を上げるとキツト降る。尤も九月の中頃は氣象の變に依つて降雨するのでもあらうが、併し花火が影響して居ることは確かである。そこで瑞西で雹をどうして防ぐかと云ふと、雹が降ると天に向つて大砲をズドンと打つ。大砲を打つと雹が降らなくなると云ふことを、瑞西では信じて、今でも田舎では遣るのぢやさうで、是が亦實際相應に功能があるさうであつて、其の理由は雨乞の理由と同じであらう。昔はさう云ふとて雹を防いだが、今は雹の保險と云ふことを遣つて居る。どうか農業保險を獎勵して貰ひたいと云ふことの話であつた。なほ學會に於ては一步進めて、再保險を獎勵する。再保險と云ふのは質を取るに下質を取つて上質を取るやうな形であるが、今は保險學が進んで再保險が喧ましくなつて居る。斯の如く農業には保險が入用である。信用組合と共に保險を獎勵して呉れと云ふことが附加つて居りました。

第六番目には、地方衛生を改良して、農民を健康なるが上にも専ら健康にすると云ふことであります。地方の衛生を改良すると云ふとの第一番は、農家にもうちつと御馳走を食べるやうにしたい。農民の料理法と云ふものを改良したい。即ち農家

の女の子で女學校へても行つたものには、農家、輕便、衛生、料理法と云ふやうなものを教へる。村井弦齋などが色々料理法のことを書いて居るが、總じて贅澤な料理で、一寸輕便に行かぬては困る。輕便に行くものでなければならぬ。さうして其の料理はもう少し蛋白質を食べるやうにするが宜いと云ふ話であるが、日本は御承知の通り米を食へることは結構であるが、蛋白質が少ない。もつと蛋白質を食へるやうせねばならぬ。我國で近頃農業のことを書いた本などを讀むと、肥料は蛋白質の一度動物の腹を通つて來たものを使ふと宜いと云ふやうに書いてあるが、動物と言はぬても百姓が成るべくそれを食べて、さうしてそれを肥料にすれば最も良いのである。蛋白質と言つても植物蛋白質と云ふものが手近にある。殊に豆が一番良い。次ぎに菜葉である。日本では此の獎勵は不必要であるか知らぬが、例へば大根などは葉は植物性蛋白質があり、根の方にはデンプンとセルロース分があると云ふので、大根位大功のあるものは無いのであるから、斯う云ふものを食すれば宜い。それから豆で、次が菜葉である。面白いには私の子供で、次男に當るのが十三程になるのですが、始終蒼白い顔をして居る。随分と肴や肉や牛乳を食へさせて居るのであるが、一向利目が無い。どうかと思つて、昨年大學病院の小兒科の或る博士に診察をして貰つたら、

う君の所は肉などを食ふことは十分だが、菠薐草のシタシをちつと食へさせたら宜からうと云ふことであつた。あなたの方の中にも若し御子供の始終蒼白い顔をして居るのがあつたならば、菠薐草のシタシを食へさせなさい。菠薐草位弱い子供に能く利くものはないさうである。それで白耳義の此の會議の時にも色々斯う云ふ風の話があつたのですが、其の時に薯はちつと控へたら宜からう——是は御婦人達に殊に言はなければならぬことで、尤も西洋で言ふ薯は薩摩芋でなく、彼の馬鈴薯のことを言ふのですが、西洋では兎角に又此薯ばかりを食ふのです。米が無いが薯が安いから、肉を少しに非常に澤山の薯を添えるのである。所からして薯を少し控へたら宜からうと云ふ話が出たのである。それは妙なことを言ふ人であるが、ドブラウと云ふ人が立つて演説をしたことを覚えて居る。薯は肺病を起すものである、どう云ふ譯であるかと云ふと、薯は身體の中の磷酸發生を妨害するから、薯ばかり食ふと磷酸が乏しくなるから、第一は骨が柔かくなり、僣僕になる。第二は磷酸が乏しくなると肺結核になる。だから薯を控へたら宜からうと云ふ議論であつた。併し曾て私が鹿兒島へ行つた時にも鹿兒島に別に僣僕が多かつたやうにも思はぬ。ドブラウは薯は身體の磷酸發生を妨害し、隨つて骨を軟化せしめて僣僕になり引いて肺

病に罹り易くする憂があるといふが、是は當てにならぬ説であるから、當てにならぬやうな時には特に其の名を擧げて責任を免れるのである(笑)。それから今のは食物の方の話であるが、今度は水の用心をしなければならぬ。衛生ですから水の用心は固より清潔な水を用心しなければならぬが、別して傳染病の爲めに水の用心をしなければならぬ。何もそんなことを態々京都から來て言つて呉れぬでも、吾々は能く知つて居りますと言はれるてせうが、オツと待ち玉へ、傳染病と言つても西洋では虎列刺は無いです、それならば何を言ふかと云ふと傳染病と云ふのは惡い流行病詰り瘡ぢや。此の瘡が随分農村に行くことが多い。御承知の通り日本には瘡が仲々多い。瘡は何から來るかと言ふと、一種の蚊の媒介に依るものである。蚊の予子は濁水に湧くのである、だから間歇熱の流行を止める爲めに衛生の爲めに、水を用心せねばならぬといふ。是は注意すべきことである。西洋には町に蚊が居りませぬ。實に西洋へ行つて有難いのは向ふには蚊の居らぬとである。是れ誠に美國であつて、日本は誠に結構でない國である。だから間歇熱が日本に多いのであるが、是に就て往時『ゼ、ネーチュア』と云ふ雜誌に斯う云ふことが出て居つた。どうも蚊が瘡の媒介になるのであるから、蚊を退治するが宜い。それには蜻蛉は蚊を食ふとを好むか

ら、そこで各自の家に成るべく多く蜻蛉を飼ふて、さうして蚊を食はせたら宜からうと云ふのである。無論そんなことは今回の決議にはなかつたのであるが、兎に角決議は水を能く注意しなければならぬと云ふことであつた。

それから第七番は農民の田舎落を防ぐ爲めにはどうか各國の政府が十分に注意を用ゐられて、先づ第一番に農民の賃銀を調査せらるゝことを希望する。それからしてどうか小作の利益をもう少し計るやうな法を講じて貰ひたい。其の爲めには成らうことならば各國に農民保護協會と云ふやうなものを組織せられたい。農民保護協會と云ふものゝ仕事は、農民の精神上と物質上と兩方の利益を保護することであるが、色々講習會のやうなものを拵へて、成るべく農民に便利なる學問上の知識を與へ、又機械の使用法のやうなものを教へるのである。又農民保護協會では成らうことならば農學校を設けて簡易にして實際的の農學を教へることの出來るやうにしたいと云ふやうなことでございました。

第八番は政府或は町村其外總て組合等に於て田舎の道路を改良して貰ひたい。田舎の道路はもう少し良くして貰ひたい。農村の生活を若い者が嫌やがるのは一の原因は道にあるので、如何にも道路が悪くて農作の往來に困難であるからである。

道路の改修は田舎を人に好かせる第一の法である。一體西洋では巴里でも倫敦でも伯林でも何處でも道路に泥濘と云ふものがない。道は丸きり石或は煉瓦を敷いてあるか、或は木を煉瓦のやうに切つて埋めてあるか、土と云ふものがない。何故煉瓦の代りに木を用ゐるか、と云ふと、石や煉瓦はガタ／＼音がするからである。もう一つ進むとアスハルトを用ゐる。さうするとどんなに雨が降つても何處一つ足の汚れる所はない。尤もそれは市中の道路の話であつて、田舎ではさう行き兼ねるが、村の方も追々さうしやうと云ふのである。西洋の街は詰り三筋になつて居つて、真中が車道で兩側が人道である。田舎とても人道と車道とを明かに區別すべきものである。せめては人道の方にだけでも通り易いやうにしたならば宜いと云ふこととて、其實例としては白耳義では既に農道の爲めに近頃四年間に千三百五十萬圓の道路改修費を出した。白耳義は御承知の通り國が狭い、さうして尙ほ日本の里數に直ほして千三百里程の長さの間は全く村道里道即ち農村の道に人道と車道を區別したと云ふとてあつて、白耳義の農務局長が鼻高々と報告をしたのでありました。第九番は農民保護として四つの改良を希望する。其一は地方の生活をもう少し趣味のあるやうにすることである。此の事に就きまして御承知の通り彼の瑞西の

國——歐羅巴の真中で山水の最も明媚な所、日本の風景は瑞西のに能く似て居ると云ふとを能く人が言ふが、是れはマケです。瑞西の方が遙に奇麗です。所が其の奇麗な風景を追々と色々下らぬ建物などを建て、妨害するから、それを禁ずる爲めに瑞西、美景保護と云ふことが瑞西政府の案になつて居る。日本でも下らぬ廣告札や何かて折角の名所古跡の趣味を打壊はすやうな傾を生じて來て居るが、どうか瑞西美景保護の精神と同様に日本の農村の風景を損しないやうにし、なほ且つ昔からある名所古跡などは直接には實利實益がないものにしても、田舎の趣味を増すものがあるから、十分保存に努めるやうにして貰ひたい。歐羅巴人でも決して日本人が想像するやうな殺風景なことは言ひはしない。帶江の觀音様あれが産に御利益があるかないかは知らぬが、あゝ云ふ名所は保存して置くが宜い。帶江銅山の煙突ばかりでは殺風景になつて困る。また此の近邊には小野小町の邸の跡といふのがある。彼處に小町が居つたか居らなかつたか知らぬが、あゝ云ふ所は石碑でも建てたならば餘程趣味があると思ふ。是は御婦人も御賛成と思ふ、笑、それから第二は、農民の家屋を改良すると云ふことである。家屋が餘り粗末である様だから、もう少し其の家屋の改良をしなければならぬと云ふことであるが、是れは日本でも御同様でありま

す。其三は小農制度の保護である。小農制度は成るべく破れぬやうにする。出來るとならば各國の法律に依つて成るべく自分の地面を人に賣渡さぬやうにしたいと云ふとである。是は國々に依つて違ひますけれども、此の間も御話する通り、英吉利でもスモールホルデンに依つて小地主を獎勵して居る。又瑞西などでも同じことであつて、成るべく家の身代は失はれぬやう、大きな人に買ひ占められぬやうに保護して居るのであつて、其の時提出された法律案が斯う云ふのである。戸主が生きて居る間に其の妻たるものの意見を聴かずして、自分の家の田畑を賣渡し質入することを許さぬ。正しく女權擴張である。笑斯う云ふ事を極めて貰ひたいと云ふとであつた。行くか行かぬか知らぬが、さう云ふ提案であつた。是亦御婦人の御賛成のことと思ふ。笑其四は、農家に氣象の利用法を講じて欲しいと云ふのである。氣象と云ふものは何に入用かと云ふと、重もに農作物に入用である。此の氣象をもう少し農家に普及して貰ひたいと云ふのであるが、是れは善いことである。日本にも彼方此方に氣象臺があるけれども、觀測を農業に利用すると云ふ風には未だなつて居らぬ。是から遊山に出掛けやうと云ふやうな時に新聞の天氣豫報などを見るが餘り農事に利用しては居らぬやうである。一體金掛けてするならば先づ農事などに

利用したい。亞米利加ではステーションに行くとき大きな氣象表が掛かつて居つて、毎日氣象を知らせて居るが、日本などではそれこそ神社佛閣利用法——などと云ふと失禮であるか知らぬが、神社の繪馬堂などに持つて行つて大きな氣象表を掲げて、成るべく農家の氣象利用法を講じて呉れと云ふのが、第四の注文でした。

それから決議の最後の箇條即ち第十番目は、農業報告、農業に關する出版物を集めて世界中に知識を普及するやうにしたい。又農業獎勵會を時々開き、而して夫の農業展覽會は何時も教育の精神を以てして貰ひたいと云ふことであつた。我國でも今日各地方各縣等に於て段々農業の展覽會が催されるが、どうかそれには教育と云ふ精神を以て遣つて貰ひたい。是は當地などは教育のことに御熱心であるから、どうか一層其の精神を以つて遣られんことを切に希望致します。

右十箇條が萬國農民大會の決議であつたので、何れも有益な話であると思ひます。是は西洋のことであるから其の儘日本に當籤める譯には參りませうまいが、今申したやうに打碎いて御話すれば、随分日本にも當籤まると思ひます。なほ之れを結ぶに一言の諺を以つてしやうと思ひます。是は佛蘭西の國では色々の組合の原則になつて、何處の組合に行つてもさう云ふとを書いてある。即ち夫は *L'union fait la force.*

英語に直譯すると Union makes force. 日本の語で言ふと結合は勢力を作ると斯う云ふのです。是が何處の組合に行つても書かれてある。是が本當の主義であると思ふ。それから獨逸で彼方此方を歩いて居りましてダルムシュタットと云ふ中央信用組合の銀行に行つて頭取に會ふ間、控室に待つて居た所が、廣告のビラに書いてあつた。それは斯う云ふのである。

Vereinbar Kraft gar leicht gelingt

Was Eins nicht zu Stande bringt

直譯して見ますれば、結合したる力は一個人の爲し能はざることを極めて容易に成就すと斯う云ふことが書いてあつたのであります。是れは誠に面白い。此の話は毛利元就が自分の臨終に子供を三人枕邊に呼び寄せ各に一本宛の矢を與へて折らせて見ると見事折れたが、次に三本寄集めて一束にして折らせて見ると折れなかつたので、結合の大切なることを誡めたことと云ふ話と同じやうな話であつて、支那の歴史にも斯う云ふ話がある。即ち斯の結合は勢力を成すと云ふそれと同じことである。どうか日本諸組合の事務所にもこれらの真訓を書いて置いて、結合の精神を失はぬやうにして貰ひたい。結合は勢力を成す、是れが今日御話した小農保護の唯一の方策であると思ひます。前章には農事改良を技術的方面から論じましたが、只今

日は社會的方面から申上げたのであります、農業の事はこれで措いて、明日は又商業の御話を申しませう。

第三章 商業教育の實際的方面

昨日までて農事改良の御話を終りましたから今日は改めて商業教育の問題に移らうと思ふのでございます。商業教育の問題は兼ねて日程に書きましたやうに實際的方面とそれから道德的方面と斯う云ふ二つに別けて、今明兩日に御話をする計畫でございます。さてそれに就きまして第一に御話をして置かなければならぬことは、先日序論にも少し申しましたやうに、今日歐羅巴で商業教育と申して居りますことは、主としては外國との商業取引を盛にするに云ふ意味を含んで居るのでございませう。それは歐羅巴の國は國と國とが非常に接近して居ると云ふことも一つの理由でございます。それから日に月に交通が非常に便利になると云ふことも一つの理由でございます。今も申しますやうに商業教育と云ふ中には主として外國との取引と云ふことを含んで居ります。しかし無論そればかりではありませぬので、矢張り内地の商業もそれと同じ道理で進めて行くことが出来るのでこ

ございますから、今日御話することは先づ大體外國商業の方針を説くと同時に、それを轉じて内地の商業に應用することが出来ること云ふことに就ても御考へを願ふのでございます。又それと同時に先づ申して置かなければならぬことは、一體此の商業と云ふものを多くの人が非常に輕蔑するやうに見える。農業は段々人が嫌ふやうになつたとは言ふ條固^まから大切なものである、結構なものであると云ふことは誰も信じて居るけれども、商業と云ふものは兎角に今でも幾らか侮蔑せらるゝやうな風があると思ひますから、先づ第一番は商業と云ふものは如何なる性質のものであるかと云ふことを説き明かして置いて、それから其の商業を如何にして進めて行くかと云ふことを御話しなければならぬと思ふのです。商業の侮蔑せられます譯は色々でございますが、是を三つに別けて考へるとが出来ると思ふ。第一番は商人と云ふものは自分で物を作るのでなく、自分で物を生産するのでなくて人の拵へたもので利益を取るのと云ふとが、商人が侮蔑せらるゝ一の理由であると思ふ。第二番目は商人と云ふものは人の上前^{まへ}をはねると云ふことに於て侮蔑せらるゝのでなからうかと思ふ。第三番目は商人と云ふものは人の困つて居る時に詰り利益するのである。例へば米が大變少ないと云ふやうな時に相場が上るのである。人

の艱難に乗じて利益を収めるものである。此三つの點から商人が輕蔑せらるゝやうに思ふのであります。それに附加へて商人は屢々奢侈を勸めるものであると云ふ一點から、又商人がひどく非難せらるゝ事でありませぬ。此三つ或は四つの箇條は無論理由のあることに違ないのであります。併ながら初めの三つに對しては斯う云ふことを申すことが出来ませぬ。世の中には無論物をつくと云ふことも必要であるけれども、其物を分配することも必要なことであつて、物の價值を生ずると云ふことは、作ると云ふことばかりから起るのでなくて、それを適當に分配すると云ふことに依つて起ることであるのだから、商人は自ら生産することは致さないけれども、分配の上に於て功能のあることは、作る人と少しも違はないのである。生産のみ貴くして分配が貴くないやうに思つたのは、極く舊時の交通不便な世の中の過つた考であつて、今日では生産と交通と云ふ此の二つは全く同じ價値に見るべきものであると云ふことを申すのであります。それから第三番目の人の困難の時に當つて値打を上げると云ふことに就きましては、或は辯解に苦しむ點が無いてありませぬけれども、強いて申しますれば、其の困難の際に當つて商人なるものが無かつたならば、其の困難は更に甚だしからうと思ふ。困難の際に當つて商人が適當に色々物を供給し

て呉れると云ふことが非常に助けになることであらうと思ひますから、是は商人を決して咎める譯に行くまいと自分は思ふのでございますが、其の代りにそれと同時に商人に向つて望むことも所謂暴利を貪ぼらざることである。併し商人に暴利を貪らざること望む前に先づ困難の時に於ける商人の機能を認めると云ふことを一般の人に望むのであります。最後に商人が奢侈を勧めると云ふことに就きましては是も一應は尤もなことである、商賣人が色々な物を賣るから強いて無くて濟んだものを買うやうになると云ふのは當然なことであるけれども、諸君に申して置きます、是までの道徳を説く人は兎角奢侈と云ふと一もなく二もなく敵のやうに思ふのであります、是は或は非常な誤解であります。今でもまださう云ふことを教へて居る人はあります。けれども、奢侈と云ふものは決して吾々の敵ではないのである。吾々が此の世に生れて安樂にすぎて行くと云ふことは、それだけ奢侈になると云ふことであるのです。唯度外れの奢侈、無用の奢侈、是は吾々何處までも慎まなければならぬが、それだけ爲めになり利益であるならば粗末なもので耐へて置く必要はない。電燈が結構であり之れを用ふる方が利益があるならば、何も暗いランプで辛抱するに及ばぬ。況んや種油などを使ふ必要はない。若し奢侈が悪いならば

何故に電燈を止めぬのであるか。何故瓦斯を廢せぬのであるか。何故に汽車、汽船電車を用ひるのであるか。さう云ふことをして居りながら、矢張奢侈は亡國だなど云ふ極く古めかしい教を以つて堂々と主張して居るのは誠におかしい様である。吾々の論ずる所は奢侈は成るべく奢侈にならんことを希望するが、唯分不相應な無用の奢侈の無いやうにすると云ふことを望むのであつて、分限は固より守らなければならぬけれども、併しながら分限を守つて何をするかと言へば奢侈をするのである。是は今までの教と違ふ様だが、戊申詔書の真意も左様であらうと恐察する。若し然らずして消極な教の儘であるならば、一切の進歩は皆廢たつて仕舞ふと思ふ。そこで商業は何であるかと云ふと、商業とは人の慾を満たすものである。斯う云ふ譯であるのです。是が今日の話の初めになるのであつて、慾と云ふものは悪いものである、其の慾と云ふものを無くして仕舞へと云ふやうな古い教ならば樂であるけれども、それは言ふて行はれぬ話である。語を換へれば吾々が生きて居ると云ふことは即ち慾の塊である。其の慾の塊が解けて仕舞ふたならば、吾々が死んで仕舞ふのである。吾々が生きて居ると云ふことは慾の爲めである。それは慾には色々な違があつて、程度の高い慾もあれば低い慾もある。さう云ふ高低の差こそあれ、學

者が新らしいことを發見しやうと云ふのも慾である。商賣人が金儲をしやうと云ふのも亦慾である。軍人が手柄をしやうと云ふのも慾である。だから人間は慾の塊である。と云ふことは是れは當然のことである。總て世の中の役に立つ人と云ふのは即ち他人の慾を満たす人が役に立つのである。多くの人に多くの慾を満たしてあげる人は其の人は多く世の中の人の役に立つのである。益と云ふものと慾と云ふものとはヤイエエヨの同じヤ行で同じことである。例へば使を遣つて物を取りに遣る所が其の使がヨイ／＼爺さんで歸つて来るまで二時間も三時間も掛かるならば、仲々慾を充たすことが出来ぬから是れは役に立たぬと云ふ。或は急に汽車で行つて早く親に會ひたい、是れ矢張り慾です。所が汽車がのろくて困る、さうすると此汽車は役に立たぬと云ふことになる。益と慾とは同じことである。即ち商人は他人に向つて役に立つものである、即ち他人に向つて慾を充たすものである。其慾は無論物質的の慾であるけれども、併しながら他人の役に立つと云ふことは同じことであるのです。語を換へて申しますれば商人と云ふものは即ち世の中に公に給仕をするものである。給仕と云ふことを英語で申しますと、*Service* 即ち他人の爲めに盡すと云ふことである。商人は決して唯自分が金を儲けると云ふことの爲めに存

在して居るのでなくて、他人の慾望に給仕する爲めに、即ち他人の爲めに役に立たんが爲に存在して居るのである。他人の爲めに役に立つと云ふとは他人の爲めに相應の慾を充たすと云ふことの意味になるのでございます。成るべく人に間違のないやうに便利なやうに役に立ち、慾を充たしてあげれば、それが商人の務を果したものであると思ふ。人が奢侈でもなく慾も無くなつて仕舞つたならば、一番に亡びるのは商業である。夫故に奢侈無用論や禁慾論などは商業發達の敵であり、且つは又文明の敵であると云ふことは申すまでも無いのであります。此の事は誰も内心には承知して居るのであるけれども、どうしても、古い教や道徳に拘泥し易いものであつて斯かる間違つた考へを持つのでありませう。

右様のことから歐米では商業研究が非常に盛であつて、先年來各所に萬國商業教育大會が開かれるのであります。昨年は即ち、埃地利の維納に於て第九回、萬國商業の教育大會が開かれました。さうして自分も會員として參列仰せ付けられたと云ふことは先日もしましたことである。其の商業教育會議に於きまして如何なることが議論されたかと申しますと、十五の問題が豫ねて配附されて居つたのでございます。それで此十五の問題を今から朗讀して見ますが、一體商業と云ふものは農

業に比べて見ますと其の性質が一層世界的のものでありますから、今茲に其の萬國商業教育大會の問題を朗讀することは、我國に於ての商業教育の助けになること、農業教育の會議に就て御話したよりももう少し適切などがあらうと思ふのです。

どう云ふ問題が議せられたかと申しますと、第一問は斯う云ふのであつたのであります。如何なる方法を以て青年に外國研究と云ふ興味を起さすのが出来るか。言ひ換へればどんな仕方て青年に外國の事物を研究さすと云ふことが出来るかと云ふ問である。それが第一問です。それから第二問は是非非常に大事なことです。如何なる方法で外國語の教師に例へば英語を教へるとか、或は支那語を教へるとか、外國語の教師に其の教授上に必要な商業的の知識を授けることが出来るか。商業學校で英語を教へて居る、或は支那語を教へて居ると云ふのは、中學校などで英語を教へるのとは趣を異にして居る。矢張り商業學校であるから英語の先生も矢張り商業に關係したとを知つて居つて貰ひたい。支那語の先生ならば支那貿易のことをも知つて居つて呉れれば非常に都合が好いと思ふから、如何なる方法を以て外國語の教師に其の教授上必要な商業的知識を與へることが出来るかと、斯う云ふことを申すのであります。それから第三問は高等商業學校内に於て——是れは諸

君とは直接に關係しませぬけれども順序であるから申しますが——技術的教授が占むべき地位はどんなものであるか。高等商業學校で或は經濟學であるとか或は財政學であるとか云ふことを教へる外に、商業に關係した商業専門の技術的教授、技術的學科が占むべき地位は如何と、斯う云ふのである。第四問は商業の道德は如何にして教授すべきかと云ふことである。是は説明を要しますまい。それから第五問は商業學校に於ける體育は如何にすべきか。それから第六問は商業大學並に高等商業に於ける經濟學科教授は如何にすべきか。第七問は商業大學内に於ける商業學の位置は如何。第八問は公立私立の商業學校に對する政府の監督は如何にすべきか。第九問は商業學校に於ては口授に伴ふて幻燈等を用ひて眼に依つて教育する方法を採用すべきこと。第十問は商品見本の蒐集に關する方法如何。第十一問は商業擴張の爲めにせる萬國講習會の成績如何。是は後に説明しますが、近頃西洋で商業擴張の爲めに萬國講習會を開く。此講習も倉敷大講演會と言つて居るが、西洋では名が大きい萬國講習會と云ふ。此の講習會は倉敷大講演會と稱するが、道理で本年も五百七十幾人の申込があつて、其の三割は他府縣の人である。幾つの縣から來られて居るかと云ふと丁度九縣から來られて居るやうである。否多い

年には十二三縣或は十四五縣から來た。此の日本で他縣と云ふは何時かも申した通り、丁度歐羅巴では他國みたいに遠いのであつて、今度も東は三河の山奥から三名西は山口縣からも來て居られる様だ。一昨年は東は信州、西は鹿兒島と云ふ範圍であつた。丁度歐羅巴で佛蘭西から瑞西や獨逸と云ふ位の距離であるから、西洋風に之れを名けたならば倉敷萬國大講習會と斯う言つて宜しいが、日本人は謙遜の美德に富んで居るから一寸もそんな名は附けぬ笑、まあそんなやうな譯で、商業擴張のためにする所謂萬國講習會と云ふものがある、其の成績如何と云ふのである。それから第十二問は商業學校を職業教育の學校と見做すべきか、又は近世的一般修養の學校と見做すべきか。是はまあ言はぬでも分つて居ること、商業學校は一の職業學校、専門學校に違無いのですが、商業學校は單に職業専門の學校と見做すべきか、それとも兼ねて近世的一般修養の學校と見做すべきかと云ふ問題でございます。第十三問は是は非常に大切な問題である。商業學校の卒業生を如何にして商業の實際界に立入らしむることが出来るかと云ふ問題であるのです。各種の商業學校卒業生を如何にして商業の實際に立入らしむることが出来るか。是れは最も大切な問題で、若し此中に色々な商業學校に關係されて居る諸君があるとしたならば、必ず此

事は念頭に起つて來る問題であると思ふ。又諸君の中に自分の子弟を商業學校に入學せしめて居らるゝ人があるならば、矢張り此の問題は始終念頭に踏つて居る問題であると思ひますから、私は非常にそれに注意を拂つたのであります。第十四問は商業上の徒弟教育は如何にすべきか、而して第十五問は非常に振つて居る……歐羅巴は御承知の通り男女同權の國である、男ばかりことを言ふと女は濟まさない、此會議に於ても女も多少は交じつて居る、それで十四問までは男に掛かつた問題であつたが、第十五の問題は女に關係したものであつて、商業上、使用人として、婦女子の得失は如何。斯う云ふ風に問題も前後抑へが附いて居て、偏頗にならぬやうにしてある。斯う云ふ一から十五までの問題が議論されたのであります。其の問題を御覽になつたならば分りますが、多くは商業の實際に關係した問題であるのです。併しながら其の中には又商業道德に關係した問題もないとはなからうと思ふのです。取り別けて申しますと第四問如何にして商業道德を教ふべきか、是は道德問題であることは言はぬでも分つて居る。それから第五番目に商業學校に於ける體育、是も商業實際に關係して居ると云ふよりは、寧ろ德育の方に付けて見た方が穩當でなからうかと思ふ。又第十二問商業學校は寧ろ職業専門學校と見做すべきか、或は兼ね

ては、近世的、一般修養の學校と見做すべきかと云ふやうな問題も、是も徳育の問題に付けて見た方が便利であると思ふのであります。其の外の十二問は是れは全く商業の實際的問題であるのでございます。て此十五問に如何なることが、地利の萬國會議に於て議せられたかと云ふとを御報告しますが、今回の私の講演の目的でありますから、其の十二問を取纏めて商業教育の實際的方面として今日御話を致しますし、而して後の三問は纏めて商業教育の道德方面として明日御話をする積りてあります。それで諸君は私が時間と大金を掛けて行つて聞いて來た事を、此倉敷で聞かうと云ふ譯であるから、之れを安く聞かされては困る。否、失敬ながら諸君が親く此會議に行かれたからとても、言語の上に困難がある。尤も諸君の中には外國語の達者な方も多からうけれども、往々不便な人もある。それは此の地利に開かれた萬國商業教育大會に於ては使ひます語が極まつて居て、それは英語と云ふものは採用せぬ、其の使用する語は獨逸語か佛蘭西に限ると云ふことになつて居たから、諸君の中にも無論澤山外國語の達者な方が居られるであらうが、日本では外國語が出来ると言へば多くは英語と極まつて居るのであるから、佛蘭西語や獨逸語で開かれた會議の様を諸君が一文も使はず、さうして能く分るやうにして而も説明を入れて、さ

うして四日も五日も掛かつたものを二日で以つて是でも分らぬかと嚙んで含めるやうにして御聞かせ申すことの出来る此の倉敷講演會は如何にも親切な會であると思はれませう。即ち是れから其の會議の報告を取纏めて私獨特の大學級的教授法に依つて面白く御話を致す積りてございます(笑)

第一番に起る問題は商業に従事して成功するには學校教育が必要であるか無いか。學校に遣るよりは寧ろ子供の時から奉公でもさせて實際に習はす方が便利であるはしないか。學校教育は有用か無用かと云ふとが起つて來る問題でございます。是は若し商業のことに心を用ゐられて居る人は、始終に考へられて居ることに違ひないと思ふのでございますが、此の事に就きましては、今から十年程前であつたか英吉利に "The Strand" と云ふ雜誌がある。それが英國の諸名士の意見を募つたことがあるのであります。私は毎々それに依つて議論を致すのでございますが、其時にステルンと云ふ人は頻りに學校教育を輕蔑したのであります。殊にオックスフォードやケムブリッジと云ふやうな大學の卒業生は、どうも商業教育に従事しては工合が悪い。何分生意氣な怠惰な風が附いて居る様になつて居るのであるから、商業界には大學の卒業生は眞つ平御免であると云ふことを、ステルンと云ふ人が

言つたのであります。其の外だん／＼それに賛成した人もありますが、併ながら結局は矢張り本當の大きな商人にならうと云ふには大學教育は入用である、大學教育がある方が宜いのであると云ふ結論になつたのであります。それはどう云ふ人が主張したかと云ふと、英吉利での日本銀行とでも言ふべきバンク、オフ、イングランド、即ち英、蘭、銀行の總裁であつて、五十年近くも商業界に最も経験を積んで居たサー、プロボストと云ふ人があつて、此の人が頻りに商業界に於ける大學教育の必要を主張されたのであります。それから有名なるアームストロング氏も商業界に大に地位あり経験のある人であるが、頻りに大學教育を主張せられて、大學の一般の修養のない人は兎角に専門に偏して困るから、大學教育があつて其の上に商業上の實習をするのでなければ、本當の大きな商人になることは出来ない、と云ふとを頻りに議論されて、結局是等の有名な人の經驗談で、矢張り大學の卒業生が其上に商業の知識を有して居つたならば、それこそ鬼に金棒で、本當に立派な商人になると云ふことの結論が附いた。それは大學教育のこととてございしますが、今度歐羅巴に參つて高い低い押しなべて商業教育の模様を見ますと、矢張り商業は商業教育とそれから商業の實地と此二つが兼ねなければならぬのであつて、學校教育は一層擴張せられなければならぬと云ふことに議論は疑も無く向いて來た様であります。日本と云ふ國は誠に定見の無い國であつて……と云ふと失禮であるが、實際色々に變はるのであるに、商業が宜いと言つて見たり、農業が宜いと言つて見たり、或は手工が宜いと言つて見たり、實に定見がない。吾々にでも聞いて呉れれば幾らでも持合はせがあるに、素人ばかりです。から駄目なのである。そこで農業教育を主張すると同時に商業教育もウツと主張して貰はなければならぬ。即ち商業には學校と實地と二つ兼ねたものでなければ往かないと云ふとは、大きな商賣人のみでなく、極く小さい小商賣人に於ても同様であると云ふとを、今回明かに認めたこととてあります。さて商人と言つても一口には言へぬ、色々種類があるから、商人の學校も亦色々な種類がなければならぬと云ふとが又分つて來るのであります。小學校でさへも一昨日も申したやうに、色々な種類の學校が無ければならぬ。女學校でも一口に女學校と言つては往かぬのであつて、高等女學校が津々浦々悉く御同様などと云ふのは例の素人考であつて、どうしても色々な種類の女學校がなければならぬ。小學校教科書でも色々種類の教科書がなければならぬと云ふのは、先日來言つたことであるが、商業はなほ更商人に色々な種類があるから、商業學校にも色々な種類がなければならぬ。それを大體に別

ぬと云ふことに議論は疑も無く向いて來た様であります。日本と云ふ國は誠に定見の無い國であつて……と云ふと失禮であるが、實際色々に變はるのであるに、商業が宜いと言つて見たり、農業が宜いと言つて見たり、或は手工が宜いと言つて見たり、實に定見がない。吾々にでも聞いて呉れれば幾らでも持合はせがあるに、素人ばかりです。から駄目なのである。そこで農業教育を主張すると同時に商業教育もウツと主張して貰はなければならぬ。即ち商業には學校と實地と二つ兼ねたものでなければ往かないと云ふとは、大きな商賣人のみでなく、極く小さい小商賣人に於ても同様であると云ふとを、今回明かに認めたこととてあります。さて商人と言つても一口には言へぬ、色々種類があるから、商人の學校も亦色々な種類がなければならぬと云ふとが又分つて來るのであります。小學校でさへも一昨日も申したやうに、色々な種類の學校が無ければならぬ。女學校でも一口に女學校と言つては往かぬのであつて、高等女學校が津々浦々悉く御同様などと云ふのは例の素人考であつて、どうしても色々な種類の女學校がなければならぬ。小學校教科書でも色々種類の教科書がなければならぬと云ふのは、先日來言つたことであるが、商業はなほ更商人に色々な種類があるから、商業學校にも色々な種類がなければならぬ。それを大體に別

けて見ると四つに別けることが出来ると思ふ。第一番は言ふまでも無く徒弟學校、補習學校であるのです。是は最も必要なものである。其の次は日本では甲種商業學校と申しますが普通の商業學校であるのです。それから其上は高等商業學校、其上は商業大學であるのです。大體商業學校と一口に言ふけれども實は徒弟學校や補習學校とそれから普通即ち甲種の商業學校とそれから高等商業學校と大學と此四つなければならぬ。尤もこれまでは既に能く分つて居るが今回の會議で私の大に感心したとあると云ふのは此四つの分け方のみを以てはなほ未だ實際に應じないのであると云ふことを論じたことがあるのです。徒弟は何處までも徒弟です、是れは一種類で宜い。併ながら高等も普通も商業學校には各二種類あつて欲しいと云ふのです。それを一種類にするから學校が無用だなど云ふ論が出るのである。今商業學校を出た者はどうも役に立たぬと云ふ非難があるのは元來二種あるべき筈の商業學校を一種類で遣らうとするから起るのであると斯う云ふのである。それはどう云ふのかと云ふと商業學校を出てからも人に使はれる所謂使用人になる人とそれから自分が多少の資本を持つて遣る自營するものと、二つあるべき筈である。餘所へ使はれて書記になるとか番頭になるとか支配人になるとか云ふのと小

資本ながら自分が店を經營して行き自前へて遣ると云ふのとは、遣り方が違ふ。言ふて見れば人に使はれると云ふうな人は、半分月給取り風であるけれども、自分が店を開くと云へば、まるで前垂掛けてなければならぬ。此の區別が無くて今遣つて居る甲種商業學校および高等商業學校などは——日本のに就いて申す譯ではないが——多くは使用人を作る學校になつて居る。どうもそれでは自前で遣つて行くには向かないから、そこで學校無用論が起つて來て、自分で商賣するには學校へ遣つては往かぬ學校へ遣ると皆月給取りになりたがるから困ると云ふが、實は別けて使用人専門學校、それから自營人向きの商業學校と、此二つに分けて行かなければならぬと言つたのは、是は名論であると思ふ。日本に於きましも自ら其邊に氣が附いて居られ、多少は遣つて居らるゝと思ひますけれども、ウンと氣張つて明かに其の事を二つに分けて、二種類の學校にするか或は學校の中を二つに分けるか、何れの方法で是を實施するが急務であるかと深く感じたのであります。夫であるから先づ第一の徒弟や補習は讀んで字の如く普通商賣人の使用人を作り、或は小仕掛の商人を作るのであり。それから甲種學校は何を作るかと云へば、一面には使用人を作り一面には中等の自營者を作るのであります。それと同じとて、高等商業學校も一面には大き

な店の使用人を作り、又一面には大きな自營の商業人を作るのである。而して最後に大學はどうするかと云ふと、是れは誤解して呉れては困る。大學では何處までも大學であるから商業學者を作るべきのである。日本でも兩三年前に商業大學を置くと云ふことで非常に喧ましい議論があつたことは諸君も御承知せう。西洋へ行きましても商業大學と高等商業とは全く違ふので、高等商業學校は實際的の人間を出すのであるが、商業大學は何處までも學術的に研究して商業學者を作るのが主であり、商人を作るのが主でないことと云ふことを申して居ります。併し其の傍ら非常に大きな事業の顧問役になると云ふやうな人は商業大學に待つことが多いのである。或は又非常に大きな會社の重役と云ふやうなものは、或る方法を以つて商業大學の出身者の力を仰ぐことが多い。併ながら商業大學の本位は商業其の物を研究して、一國の商業を盛にすることの任務を帯びて居ると云ふことを考へて貰ひたいと云ふこととてありました。左様な譯であるが、今日主として御話したいのは元來倉敷講演は重もに地方に向つて利益を普及するのであるから、私は先づ第一に徒弟學校補習學校のことを少し詳しく御話をしたい積りでございます。さて徒弟と申しますと日本では所謂丁稚である、小僧である。日本ぐらゐ徒弟が

虐待されて居る所は無い。尤も歐羅巴でも昔は日本と同じことであつた。併し歐羅巴は流石は平民國であるから、中世紀以來に徒弟を保護する規則が澤山出來た。私も先年人に頼まれて歐洲各國の徒弟制度を調べたが、歐羅巴の徒弟制度はなかなか完全に發達して居ることを發見しました。今日は其の話は出來ませぬが、併し先づ近頃は獨逸を初めとして、地地利それから瑞西を推しますが、瑞西と云ふ國は風景が立派であるばかりで無く、教育制度、社會制度萬般非常に完全になつて居ります。殊に商業教育などは殆ど獨逸などを凌駕せんばかりに完備して居るのである。と云ふのは其の筈である、瑞西は御承知の通り永久の中立國である。大きな國の真中に挟まつて居る。即ち西は佛蘭西、北獨逸、東地地利、南伊太利と云ふ様な大きな國に挟まつて居るから、始終中立をして居ります。随つて兵備を設ける用が無いから、伊太利が軍備に二億萬圓を費しながら勸業費に一千五百萬圓位しか出さぬと云ふやうなのと譯が違つて、軍備はありや無しや、兵隊はホンの少し飾りと言つて宜い位あるだけで、其の代りに一切の費用を教育や社會改良に向つて注いで居るから、非常に立派である。世界中での美國である。成程國名の示す如く瑞祥の國である。そこで獨逸、地地利、瑞西等の國では徒弟の制度が非常に完全である。佛蘭西も完全して

居るが併し佛蘭西は後れて居る。殊に獨逸では所謂徒弟法があつて、丁度工場に工場法がある如く、傭主と徒弟との間の權利義務はキチンと極められてある。是は日本でもさうあるべき筈であるが、悲しいかな今頃工場法がヤツと出来て、それも早やかつたの遅かつたの、工合が善い悪いのかと言つて居るやうな國であるから、まだ徒弟法の實現は遠い未來であらう。何にせよ日本を決して一等國などと思つてはならぬ、二等國でもまだ遠いことである。話が横に外れるが……一體どうして日本が遽に世界の一等國であると考へられたかといふと、日露戦争に勝つたからだと思ふて居つたけれども、あれは間違ださうです。他に原因があるのでさうです、それは私も近頃になつて聞いたのですが、日本は英國と同盟をしたから一等國である、英國は世界の大国である、其の大国と縁組をしたから一等國になつたと云ふのださうです。それでまあ日露戦争に勝つたから一等國、是は文明人は言はぬ。戦争に勝つことは本當には良いには違ひないが、文明人は口先ではさう言はぬ、大国と縁組したから一等國と言ふ。所が此縁組や甚だ都合な縁組で、向ふの都合の好いやうにやつた縁組であり、英國政府と日本政府との同盟であるが、悲しいかな英國國民と日本國民との同盟でない。同盟が締結された時に日本では皆國旗を出した、それに與か

つた諸大臣がたは授爵された。所が向ふては爵位などは誰も貰ひはせぬ様だし、國旗が出てあるかと思つて倫敦の市中を見て歩いた所が、タッタ一本出て居つた。夫は日本公使館であつたと云ふ噂で、大笑情けないとである。故に是は國民の同盟にあらずして、政略上出来て居る政府の同盟であるげな。誠に情けない話ではありませぬか。どうか日本が本當に一等國になる様に、それには陸海軍のみでは往かぬ、殖産興業にも大に力を用ゐて貰はなければならぬのであります。さて話が元へ戻つて、獨逸で感心したと云ふ其の一等國の徒弟はどんなになつて居るか話して見ると、無論食物はどう云ふ食物を食はさなければならぬと云ふとまでも極まつて居る。又何時間寝かせてどう云ふ寢室を與へなければならぬと云ふことまでも極まつて居る。其外に斯う云ふことがある、傭主たる者は商業上の掛引並に商人に關する知識を與へなければならぬと云ふとがある。日本では丁稚小僧と言つて使にばかり遣らせたり、又風呂へ這入て背中を流させたりして、少しも商業上のことは教へて呉れぬ。四年五年經つ中に自然に見真似聞真似で覺えるのであるが、其の代りに其間には品性下劣になつて、終には救ふことの出来ない状態になる。元來奉公して徒弟になるのは商業の上の知識を得んためである。だから商業上の知識を授け且つ徒

弟に知的並に美的性能を發揚せしむべき筈である。勿論この美的性能中には道德も含まれて居るが、此の知的並に美的性能を發揮せしむるやうにせよと云ふことが丁寧に書いてある。なほ其知識を授けるや簡より繁に及び、近きより遠きに達するやうにせよと、まるで教授法の如きものまで示されて居る。而して其の教へるには店に於て或はオフィスに於て、又旅行に於てせよと云ふ風に徒弟教授法と云ふやうなものも示され、傭主はまるで學校の先生のやうに教授法を心得なければならぬと云ふことは、如何にも行届いたものと思ひます。右様な事から徒弟は又徒弟學校に出さなければならぬと云ふことは義務になつて居ります。徒弟が御主人の好意で夜學校へ遣つて貰ふと云ふやうなのは譯が違つて、獨逸では是れが義務になつて居る。其代りに其の時間は少ない。學校に遣る時間は大抵一週間六時間でありませぬ。併し所に依つては八時間乃至十二時間と云ふ所があります。遣るのは小學校を卒業してから三箇年と云ふことになつて居ります。其三箇年を三學級に分つて居ると云ふとてあります。銀行と云ふものはどう云ふものを學校で教へるか、と云ふと、第一番は商業機關であります。銀行と云ふものはどう云ふものであるか、爲替と云ふものはどう云ふものであるかと云ふやうに、商業機關或は商業制度を教へるのであります。其

次には商業算術、それから其次には商業地理、簿記さう云ふものを教へるのであります。さうして若し都合が好かつたならば外國語を教へて遣ると云ふことになつて居るのであります。是は日本に於ても是非さう云ふことにしたいと思ふのであります。これがこれに就て茲に面白い話があります。それは凡そ商業教育をしまするに際して、例へば徒弟教育をするに際して、實地と學問とはどう云ふ時に於て關係せしめて宜いかと云ふことが問題になつて居りました。是に答へますには、歐羅巴に於て三つの法があると云ふとを申すのでございます。第一番は並行法と云ふのである。第二番は先行法。第三番は後行法。此三つの何れが良いかと云ふことは、外國に於ても盛に論ぜられたとであるのです。此の問題は常に商業教育にのみ關係する問題ではなくして、一般教育にも關係ある問題であるから、一般教育に従事せられる方々にも御聞きになつて利益があることと思ひますが、並行法と云ふのは一方で徒弟なり何なりになつて實地に遣りつゝ、一方で其學問原理を修める所の方法である。先行法は一通り學問をさせて置いてから、それから實地に就かせる方法である。後行法は先づ實地の方に就き一通り實際上の勤めを覚えてから、然る後學校へ行つて學理を修める。此三の中何れが必要であるかと云ふことは盛に議論されたことと

あるのですが従來は大抵竝行法であつたと云ふのです。即ち晝は店に出て商業の手傳をし、夜になつて夜學に行くと云ふ風の竝行法でやつたが、今は追々變つて來て先行法が良くなつて來た。而してそれに後行法を以てすと云ふのである、と云ふのは斯うするのです、一通り徒弟になる前に相當に商業上の教育を授けて(無論其の程度は色々あるが)それから實地に遣つて、其の上何處か講習會に行くとか、或は何處かの簡易科に這入るとか、通信教授で勉強するとか何なり便利な方法で補ひを附けてやる。即ち學……實地……學と云ふ風の順序にしたら良いと云ふ説であるのであります。此事は今回の會議に於て聞いた許りでなく、十年來獨逸等に於て實業教育に於ては皆斯う云ふ法が用ゐられて來たのであります。否獨逸ばかりでなく、英國に於きましても矢張り其の方が良いとして學びつゝあるのであります。獨逸の南の方にミュンヘンと云ふ所がある、ミュンヘンは麥酒の産地として名高い所であるが、麥酒を多く作るだけに麥酒醸造業が盛である。醸造學は専門學である。所が此醸造學を習ふに、普通中學(日本で言へば高等學校)を卒業して直ぐ大學の醸造科に這入つて、それから技師になつて醸造科の家に奉職して實地のことを習ふと云ふのが今まで通例遣つて居つた方法である。所がそれが工合が悪いと云ふので、十年

前から獨逸では斯う云ふ風に遣つて居る。高等學校を卒業してバツタリ學問を止める。それから二三年醸造家に奉公する。さうして醸造に就て實地の手心を學んでから大學に這入る。さうすると大學で習ふことの先きに實地のことを心得て居るから非常に利益がある。此方法こそは今の先行法に合はすに後行法を以てする方法に合ふのでなからうか。此方法を擴めては、女が女學校で先づ少し學科を修めて置いて、それから御嫁入りをして實地を習つてから、それから愈々本當の學問を遣ると云ふやうな遣り方になるのであるが、そんなことは無論出來ぬ。併し是を師範學校にならば應用が出来る。小學校を卒業してから實地の授業を覺えて、それから勝手が分つてから師範學校に這入つて教育學を修めると云ふ風に遣つたならば、大變便利なことてなからうか。先行法と、後行法はさう云ふ關係を以つて見ることが出来るやうに私は思ふ。今是が最近の實業教育法であるとして、英國でも賞讃されて居るのであるが、今度は徒弟法にまでもそれが應用されて參りました。其次に異に思ふたことは、是まで私が十年前に歐羅巴に居つた時は徒弟の學校は皆夜學であつた……どうか能く此處を御聞きを願ひます。然る所が今回行つて會議に臨みますと徒弟學校は晝學となつて居る。夜學でなくて晝學である。日本では夜學々々と

言つて頻りに言ふけれども西洋では夜學などは最早や時代が遅れて居つて、徒弟でも晝學を實行して居る。晝學と言つても朝早くから遣るのである。尤も向ふは總ての人が朝寝坊であるから、夜は店が仲々盛である。殊に色々飲食店であるとか小店は皆夜長いこと開くのであるから、夜になると夜學の生徒がどうも氣が立つて往かぬから、學校は晝學校にせよ、時間も晩方七時よりは決して遅くせぬやうにしると云ふことを議論して居ります。其の外それと同じやうなことで今一つ言ふべきことは、徒弟學校を卒業した者には徒弟卒業試験を施して徒弟卒業證書を遣つて、それが何より確かな推薦狀になると云ふとの議論もございました。段々の話もありました。がそれはそれで措きます。さて徒弟學校の問題はそれで御分りになつたと思ひますが、それから次に御話しますのは歐羅巴に於ける一般の商業教授上の模様を少し御話しまして、さうして最後に婦人問題に立入らうと思ひます。

さて商業教授に於て第一番に論ぜられましたことは眼で教へると云ふことであります。即ち幻燈を使ふこととあります。是はハザックと云ふ議員が唱へて非常に喝采を博したのであります。五日間會議が續いたが、其の中で満場一致を以て可決したのは此の幻燈を使ふと云ふこととあつた。寫して見せますと云ふのでどん

なものが寫されたかと云ふと、色々交通機關などの外に日本の貨幣……大判小判それから明治の金銀貨、是が日本の貨幣、此次は紙幣を御覽に入れます、是が大英銀行の紙幣、佛蘭西の紙幣、是が日本の百圓札と云ふ風で見せる……併し百圓札が倒に成つて居たは滑稽であつた。兎に角商業學校には紙幣の印刷物はあらうが、一々各國の紙幣を置いて置くのは大變てせう、所がそれが幻燈で幾らでも見られる、便利な遣り方である。それから又、是が瑞西のサンゴタールの汽車、是が日本のノロイ汽車と云ふ風にして、此幻燈に依つて、旅はせぬでもすつかり商賣の見本も分り、商業交通の様も分る。其幻燈には斯う云ふのが宜いとか色々教へて呉れたが、要する所、商業學校にも幻燈を使へと云ふことである。是れは話が横になるが、私が拾數年前始めて西洋に行きました時驚いたのは幻燈利用の盛なとである。美術史の稽古にも心理學にも幻燈を使ふて居た。そこで今度はもう一つ進んで商業學校にまでも利用されるやうになつて來た。是れは一大進歩である。それと同時に見本を集めなければならぬ。見本を集めるには如何にして遣るか云ふと、一體日本の學校に於いては何處でも見本が乏しい。あつても中に徴が生へたのものもある。それは他の學校はいざ知らず、商業學校はさう云ふことでは往かぬ。商品の標本が大切であるからと

云ふので、今日英國はケンシントン博物館では國中に其の展覽してある標本を巡回して貸して歩いて居る。日本の博物館はどうですか、手觸るべからずと必ず注意がしてある。所が向ふではそんなことはない。博物館に並べたものは例へば學校なり教育會なりにドン／＼貸すやうにして居る。私は驚いた……ケンシントン大博物館の陳列品が所々箱が空になつて居る。どうしたのかと聞いて見ると、今地方に貸してあると云つた。非常に便利でせう。圖書館でも日本の圖書館であると貸出と云ふとは餘りしないが、西洋の圖書館は九分九厘貸出である。急がしい人が朝から晩まで圖書館に居る譯に行かぬ。だから日本で圖書館へ行く人は大抵閑人に限る様である。西洋では急がしいのでそんなとはして居られぬ。塊地利て千九百四年即ち今から八年程前に初めて商業學校に於ける商品交換會を開いた。年に二回程交換することになつて居つた。所がそれが非常に成績が好かつたので、今回は各國に中央商品交換局を置いて國中に之れを廻はすやうにしたならばどうかと云ふ建議であつた。なほ望むらくは萬國商品交換中央局と云ふものを開いて、世界中互に商業の見本を交換するやうにしたならば便利である。是れも幻燈を遣つたハザックが盛に唱へて、満場一致を以つて可決され、吾々も勿論双手を舉げて賛成したの

であります。併し實際斯んなことが日本に行はれるやうになるのは仲々遠いことである。可決に加はつても行ふ方の責任は私に無い。眞野局長にシツカリ頼む。是が實行されるやうになるには、まだ／＼遠いことであらう。

其の次には一般に商業學校で教ふるに當つては商業に關係を附けて教へて呉れ、例へば商業學校で歴史を教へるには、それはナポレオンのことも大切であらう。或はネルソンのことも大事、佛國革命のことも大事であるが、商業學校で歴史を教へるには同時に經濟の發達と云ふことと商業上の大企業の歴史を話すやうにして貰ひたい。地理を教へるにしても、名所や舊跡などを教へるばかりでなく、矢張り商業地理のやうな精神を以て教へ、又算術に於ても矢張り商業に關係した問題を課するやうにし、其の外物理、化學を教へるにしても、さう云ふやうな精神で遣つて貰ひたいと云ふことの注意が非常に稱へられて居つた。是は尤もなことである。外國語を教へるにしても同じで、唯其の語學を教へるばかりでは往かぬ。同時に商業上の用語とか、商業上の手紙の書き方、請求書や受取の書き方なども出来るやうにならなければ、本當の商業學校の外國語の教師とは言へぬ。さてそれはどう云ふやうにして教員を養成するかと云ふと、商業外國語師範學校と云ふやうなものが出来たならば宜

からう。若しそれが出来なければ講習科を置いたならば宜からう。それも出来なければせめては商業學校の外國語の教師は大學卒業生を使ふよりは寧ろ高等商業學校の卒業生を使ふ方が宜からうと云ふのである。さう云ふやうなことが議決されたのである。併し到底自分の國に居つて外國語を本當に修めることは出来ぬから外國に留學させるのが一番である。どうしても外國に留學しなければ外國語は本當に習ふことは出来ない。併し留學と云ふものは實は功能の無いもので、悪いことばかり覺えるか、さうでなければ名所見物位に過ぎぬ。だから外國留學は一面には無用であると云ふので、議員のステツプマンと云ふ素敵に大きな男が立つて喧ましく言つて居つた。だから外國に留學をさせるならば先方下宿屋や又學校の先生までもチャンと極めて、さうしてそれに青年を送るやうにしなければならぬと云ふことでありました。尤も留學と言ひましても日本の文部省の留學生などは違ふのです。日本からの留學生などは皆相當の年輩に達し、思慮にも富んで居る人が行くのであるが、外國ではさうではない。皆若い者を留學させるのであるから、下宿屋などの方面も十分の取締を要する譯である。是れよりももう少し便利なのは先刻御話した即ち商業擴張の萬國大講習會が便利である。此商業擴張萬國大講習會

と云ふのは原名を獨逸語で言ふと Internationale Wirtschaftskurse 又佛蘭西語で言ふと Cours International d'Expansion Commerciale 譯すると萬國商業講習會或は商業擴張の萬國講習會ともなるのであります。それは千九百七年と言ひますから、今から五年程前に初めて開かれたのでありまして、それは瑞西に萬國商業教育擴張中央會と云ふ協會があるのであります。其の協會の盡力で開かれたのであるが、初めの年は瑞西のロザン市、次は獨逸のマンハイム、次は佛蘭西のアーブル、それから奧地利の維納と、さう云ふ風に瑞西、獨逸、佛蘭西、奧地利と云ふことで順々になつたのであります。それはどう云ふことを遣るのかと言ひますと、外國語學科と云ふのと、外國商業科と云ふ二つがあるのであります。外國語の知識に乏しい人は外國語學科に這入つて其の語學を習ひ、又既に多少出来た人は外國商業科に這入つて諸方の商店や工場や何かを參觀し、然るべき人と交際をし、又取引の模様などを見るのである。期間は大抵四週間から六週間である。時に依ると二週間から四週間になつて居る所もあります。それで外國語などは力が色々違ひますから、それを幾組にでも分ける。人數が少なくても構はず、三級も四級にも分けて丁寧に教へる。どれ位の人數かと云ふと、諸君驚く勿れ、萬國大講習であるが、一番餘計来た時には外國語學科が先づ七十五

人、商業學科が百五十五人、兩方合はせた所で二百三十人、斯う云ふことである。此の倉敷講演會が毎時五百人、六百人と會員があるのとは大變違ふ。けれどもそれが非常に成績が良いと云ふので、中央會の會長が報告をした。或は我田引水の嫌のある點もあらう。て私は意地が悪い、どんな人が重に行きますかと尋ねて見た所が、八分九分通りは教員であると斯う云ふ答であつた。私は此答を聞いて聊か残念に思つた。一體此講習會は商業教員の爲めにするのでなく、商業實地の爲めにするのであるから、餘り都合好く行つて居るものとは言へぬ。それにすると此倉敷大講演會などは威張つたもので、五百餘人の聴講者の中で三割位教員にあらざる實業家の人が這入つて居ると云ふ事であつた。併しそれにしても残り七割が學校教員諸君であると云ふと、講習會はどうしても教員の能く出るものであると云ふことは、萬國の通義であるやうに思はれます。段々話がありますますが、まあそれで措きます。それで外國へ留學させるにはどう云ふ費用で遣るか、と云ふと、向ふては大きな商人が補助します。其次は町、村費を以て遣るのがあります。殊に驚いたのは外國へ留學さすべき爲に教育會がある。それは佛蘭西のグルノーブルと云ふ所にあるのであります。それが、外國在留少年同國民保護協會、*La Société de Patronage de Nos Jeunes Compatriotes*

a l'Etranger と云ふのであつて、それから留學生を出して居る、なほ面白いのは巴里に萬國交換協會 *La Société de l'Echange International* と云ふものがある。何を交換するかと云ふと子供を交換するのである。どう云ふ目的で交換するのかと云ふと、外國語を實地に練習させるためである。外國語と云ふものは外國へ行つて來なければ實際的に修められるものでない。外國に旅すれば止むを得ず覺える。私はリードルを五卷上げましたと言つて威張つて居つても、船に乗つて食堂に這入つた時に料理の註文が出来ぬ。堂々たる學校の英語の教授が外國船に乗つて留學に出掛ける時に、食卓に向つた時に料理の註文が満足に出來なかつたと云ふ例さへあるのである。本當に實用的の語を習ふには其の國に行きさへすれば宜い。そこで夏休の間其の目的で子供を交換するのである。佛蘭西の子供を獨逸の家庭に預ける。其の代り獨逸の子供は佛蘭西の家庭に預けるのである。之れに就ては誰某は何處其處へ預ける、誰某は何處へ送ると云ふことを掌る萬國交換局が出來て居るので、其處で遣るのである。日本でも斯う云ふ方法で日、清、兒、童、交、換、協、會、と云ふやうなものが設立になつたならば、非常に外國貿易に於ても便利であらうと思ふ。

段々と時間が経ちましたから大學教育の點は畧しますが最後に婦人問題に就て

御話すると、是が實に最後の大舞臺であつたのです。それまではステツプマン、ハザックなど云ふ大男の者許の擅場であつた。所が其の前から大きな帽子を冠つた年頃二十三四の素敵な別嬪がチラリ／＼出沒して居つた。立派な帽子じやと云ふ大變な評判であつた。何んぞ知らん、それが最後の婦人問題に立つての辯士になつた。尤も一體は佛蘭西の何某と云ふ女の教育家が演説をする筈であつたのであるが、何でも自動車で落ちて怪我して出席することが出来なかつた爲めに、此の大帽子の美人に頼んだものと見える。何處も女ならては世の明けぬ國で、此女の演説となると大變な喝采である。此人は何と云ふ人かと申しますと、匈牙利から來たシュインメルと云ふ御嬢さんであつた。大評判であつた。成程辯者で恐らく五日間の會議の中で之れに越へる辯者はなかつたらう。私共外國人と雖も思はず手を澤山に打つたのである。て、此シュインメル嬢が演説をして言ふには：「どうも商業上には追々女子が使はれるやうになるが、是からは一層多く女子を使ふことにして貰ひたい。其の理由には第一は追々結婚が減少するのではないか。結婚が減じて來れば女が獨立するだけの業務を見付けねばならぬ。それには商業が最も適當である。第二番には昔は家内の内職があつたが、今は機械が發明され工場が設立された爲めに、家

庭の内職が減少して來た。即ち家庭の内職をして居つた女は轉じて商業に従事するが適當でないか。第三番目は普通教育は國民の義務となつて、男も女も同じ教育を受けるのであるとして見れば、男も女もをなじやうに商業教育を受けて商業に従事するに適當である。否暫く一步を譲つて結婚をしても、結婚後小商賣でも傍營んだならば、大に家事の助にもならうと思ひますから、右四個の理由に依つて私は女子を商業上の使用人とするに就て賛成をするのである。それと同時に女子も男と同じやうな商業教育を受けるやうにして貰ひたい。まあ此の女子論客の議論は斯う云ふ筋であつた。所て其の證據として挙げたのは、塊地利の維納では近頃女子商業大學が立てられて、男子と同じとを遣つて居つて、非常に成績が好いと言つて演説をした。所が皆萬歳と言つて賛成をしたが、後に誰が立つたと云ふと、瑞西の一議員が立つたので、唯今御話しのシュインメル嬢の御説は誠に御尤である。我が瑞西に於ては夙にシュインメル嬢の言はれて居る通り遣つて居る。瑞西では商業學校が總て二十九校程ございます。尤も是は中等學校と高等學校と合せたのでございますが、其の中で十二校は男女共學、即ち同じ學校に同じやうに這入つて同じことを習ふことを許すのである。七校だけは男子だけ、而して十校は女子の學校である。して

見ると瑞西の方では女を餘計使ふ傾があると云ふとが分る。さう云ふ譯であるから唯今のシュインメル嬢の御説には双手を舉げて賛成すると云ふので大變シュインメルに賛成した。併し議論であるからどうも美人が言つたからとて賛成して濟まずと云ふ譯には往かぬ。又中には學校の數は分つたが男女の學生の數が幾らであるかなど質問するものがあつた。女學生の數も多くある。千九百九年の調査に依ると男の數が二千五百三十四人、女の數が千二百二十四人ほどであると答へた。仲々盛んである。それ位に甘く述べて且つは瑞西からの有力な議員の賛成もあるからそれで通るかと思ふと、其處へ一人立つた人がある。奧地利の人でグレンダールと云ふ大きな男が立つて斯う云ふ説を吐いた。唯今は折角御嬢さんの御演説があつたけれども、私は遺憾ながら之れに反對する。何んとならば女の健康と云ふものは頗難なる商業に従事することを許さぬ。のみならず女の天職は何處までも家事にあるのであるから、一層盛んに家事に従事すると云ふやうな風にしたならば宜いではございませぬかと云ふことを滔々と述べたのである。話が長くなるから詳しいことは今夏講演した『家庭教育論』が出版になりましたら、それに詳しく書いてある筈であるが、本書第四篇今度歐米を歩いて感じたことは女の天職が家事である、と云

ふ叫びの聲で、亞米利加の如き男女同權の國でさへも此の議論が盛であつた。即ち此のグレンダールの説は至極尤なことであるから、一體どうなるかと待つて居つたら、會長は是は折角であるけれども今日は決を探りませぬで、第十回即ち次の會迄宿題として置きませうと云ふので、此の問題も終つたのであります。是て商業教育の實際的の方面の話を済ましたのであります、今日御話の出来なかつたものは明日に譲ります。

第四章 商業教育の道德的方面

御話も追々進みまして本章で滿講となりませんが、茲には此の商業教育のことに關して最も大切な問題に就て申上げるのであります。即ち商業道德と云ふことに就て御話をする筈に致して居ります。此の問題は前章に申しましたやうに奧地利の維納に開かれた萬國商業大會に於きましては第四番目の問題として論ぜられたのでございますが、只今は一通り其時の議論の模様を御話をして、如何に結論されたか、又自分はそれに對してどう思つて居るか、今後はどうなるか、其事は一般の實業に従事せらるゝ諸君に於ても如何に考へなければならぬかと云ふことを御話しや

うと云ふ積りてございます。

さて如何にして道德を教ふべきかと云ふ問題に就きましては、私は毫も豫期しなかつたのであるが、劈頭第一には我が大阪の市立高等商業學校の校長をして居る加藤彰廉君の報告が朗讀されたのである。加藤君は私と二十年來の親友でありますが、併し同君が報告を提出せられたと云ふことは知らなかつたのである。然る所開會劈頭に加藤君の報告書が代讀せられたと云ふことは、私は少しビックリ致しました。加藤君の報告は英語であつたが特に採用されました。論旨は極く簡單なものでありまして、詰る所是から後の商人には道德上の修養が入用である、商人の道德上の修養と云ふのは、正直を以て第一とする、其正直と云ふものは如何にするかと云ふと、人の心の中に道德上の情操、英語で言ふセンチメントを動かすことに務めたいとの考で、極く平たく言へば良心を養ふやうにすることが宜いのである。其の養ひ方はどうするかと云ふと、先づ商業學校の教師の撰擇方に注意するところが宜いのである。教師が悪るかつたならば、逆も商業道德は教へることが出来ない。其良教師とは人格の立派であつて、而して經驗に富んだ教師を採ることが宜い。而して教育は唯教場のみで教へて出来るものではないと思ふから、戒るべく教場の内外、學校の内外に於

て教師と生徒とが親密に交際をすると云ふやうにしたならば宜からうと云ふ論文であつたのであります。極めて簡單極めて平易でありますが、皆の者が一同拍手喝采して呉れたと云ふことは、私同國人として殊に多年の友人として嬉しかつたことでもあります。併しそれに就ては右様の話で議論のあり様もありませぬから、誰も何ともかんとも申しませなんだ。それから本當の討論の幕が開かれたのであつて、大きな人が現はれて來たのです。其出て來た人はブラーグと云ふ所(ボヘミヤの都)の高等商業學校の校長をして居らるゝ人でラザベックと云ふ人である。此ラザベックが立つて非常に長い而して非常に有益なる演説をしたのであります。大方演説としてはそれは昨年の萬國商業教育會議の中で最も聞くべき所の一つであつたと思ふのですが、堂々と話し出した。其話はどう云ふのかと云ふと、其大要を申し上げます。凡そ商業と云ふものは如何なるものであるかといふと、商業と云ふものは社會が進化して行く、即ち社會が文明になることに於て最も大切なる要素の一つである。商業が繁昌しなかつたならば、矢張り社會は進化せぬのである。又語を換へて申して見ると、商人と云ふものは一國の財産を管理して居るものと謂つて宜いのである。其の國の商人がまづかつたならば、其國の財産の運轉と云ふものは立派に行かぬの

だから商人は一國の財産の管理者と看て宜いのである。商業と云ふものが斯の如く大切なものであつて、社會に取り國家に取り忽かせにすべからざるものであるとするならば、其の商人には立派な人を作らなければならぬ。即ち商人の人物を養成すると云ふことは、非常に大切な問題であると思ふ。併し茲に問題があるので、それは一體、道德は教ふると云ふことは、出来ることであるか、出来ぬことであるか。此の道德は教へられべきものか、教へられざるものであるかと云ふことは、千古の大問題である。此の問題を決しなければ、商業道德の教育如何と云ふことも無論論ずることが出来ないのであると云ふことから論じ出たのであります。今回此の講習會員諸君も其大多數は學校教員方であると謂ひますから、改めてこれは倫理修身の教授に關しての議論として御聞下さつて少しも差支ないのでございます。既に私は拙著『新教育講義』(六盟館)の中にも詳しく述べ置きましたが、斯の如きことを申しましたならば、古い御人々は往々不審を抱かれるか知れませぬけれども、實際道德と云ふものは果して教ふることか出来るものが出来ぬものか。生れ付き立派な善人は善人だが、悪るい子供を善く教へることが出来るか出来ぬかと云ふことは、千古の大問題でございます。歴史を調べて見ますと、昔希臘時代に於きまして既に二派が

分れて居つたのでございます。其一方は有名なる大聖人、希臘の孔子様とも言ふべき人のソクラテスであります。又ソクラテスの弟子のプラトーン。此二人の聖賢の考へた所に依ると、吾々の道德と云ふものは知識に依るのである。如何なることをすることが善いことかと本統に知つてさへ居れば、さう行ふに極まつて居る。知つて居つて行はぬのは生半弱に知つて居るからである。何をか善となし何をか悪となすと云ふことを本當に知つてさへ居れば、間違ひなくさう云ふ風に行ふて行くに極まつて居る。即ち道德に關する知識を授けると云ふことが必要であるが、既に知識を授ければ道德が出来るとして見れば、道德の教授は無論出来ることと云ふ議論に成るのであります。是れは詰り、主智派であります。是に對して同じく有名なるアリストートル、それからアリストートルの後に出了た學派で、ストアックと云ふ學派がある。アリストートルやストアック派などが申します所では、道德と云ふものは理窟を知つたからとて出来るのではないのである。行が先きである。行はすのが宜いのである。だから教場で如何に立派に講釋をして聞かせても出来るのではない。唯大なり小なり善しと思ふことを行はすが先きであると云ふのであつて、此方は先きのに對して、主行派、とても申しませうか。斯の如き議論があつて、既に二千餘年の

昔から道德と云ふものは教へられるべきものかどうかと云ふことが議論されて居つたのである。近頃になつても二つの反對意見が教育界に行はれて來た。それはどう云ふのかと云ふと、一人は獨逸のシュッペンハウエルと云ふ人の意見である、もう一つは佛蘭西のルッソーと云ふ人の意見であります。是れは孰れも近世であります。シュッペンハウエルは死んでから五十年ソコ。又ルッソーが死んでから百年餘りである。兩方とも近世である。同じ近世でも現にシュッペンハウエルとルッソーとは言ふことが違つて居るてはありませぬか。シュッペンハウエルの言ふ所に依ると人は遺傳に依るものである。生れ付き先祖から、父祖からの傳來に依るものであるから、悪るう生れたものは如何に教育して見ても之れを左右し之を改良するところが出来ぬと、遺傳萬能論であります。所がルッソーはさう言はない。無論人間は生れ付き善く生れて居る者を、悪るい教育をすれば悪くなるけれども、正當の教育を施しさへすれば其の善き性質を十分に伸ばして行くことが出来ると云ふ徹頭徹尾所謂性善の論者である。ルッソー程西洋で性を善なりと立てる學者は多く無いのであつて、人は生れ付きが善であるから、教育を善くしさへすれば其の善き性質を十分に伸ばして行くことが出来ると云ふ詰り教育萬能論であるのです。斯様に昔も今

も學者の説が違ふてないかと云ふことの議論を致しました。之れに因みて私は一寸現時の問題に立入つて御話をしてみますと、教育學の上では二個の大問題が始終に争つて居るのであります。それはどう云ふことを申しますかと云ふと、凡そ教育と云ふものは此處に書きましたやうに遺傳が重なる事であつて、其の生れ付きも固より大事であらうが、居る所の境遇が亦大事なのである。是れは目下盛に議論されて居ることでありませぬ。京都の大學に於きましても本年の九月以後私が教育學に於て現に講義をして居る事柄は遺傳と境遇と孰れが主なりやと云ふ事であつて、教育學の根本問題としては此事が盛に争はれて居るのであります。それはどう云ふ人が遺傳萬能論を唱へるかと云ふと、英吉利のガルトンと云ふ人、是は本年一月に亡くなつた人である。極く新しい人である。此人が遺傳萬能論を唱へるのである。それから佛蘭西ではオーダンと云ふ人、此人は境遇萬能論を唱へる人で、それに就て大部の著述がある。無論今日は其處まで立入つて申しませぬ。兎に角さう云ふやうに二千年の昔にても、百年内外の昔にも、將た又現今も斯う云ふ議論が二つ争つて居るのでございます。是は非常に大切なことであります。若し遺傳が萬能であると教育の仕方は變へなければならぬ。併し境遇に依つて變るものである、昔から言ふ通

り朱に交はれば赤くなる」と云ふやうに境遇に依つて變はるものならば、吾々の教育に従事するものは責任は非常に大なる譯であり、又家に於て父母たるものの責任も非常に大なることが分るのであります。さて元へ戻つてラザベツクの考ては矢張り教育は境遇に依る。だから境遇を善くさへすれば十分道德教育を施すことが出来る。商業道德と云ふものを施すことが出来る。それは何に依つて證明するかと云ふと、證據を挙げなければ往かぬ、唯水掛論ばかりして居つては往かないからと云ふので、證據を一つ舉げて見やうと思ふが、其の例證は英吉利の北蘇格蘭に造船所て有名なグラスゴーと云ふ所がある。其處は一寸御話をしますが、今日全世界中で市制が近世的に極く完全して居る所と謂はれて居る。伯林も立派である。巴里も立派である。倫敦も立派である。併し大きな都は仲々學問的に立派な市制が施されると云ふとは出来悪くいのですが、グラスゴーは市制の遣り方としては第一の模範である。で今度私が遠くグラスゴーまで行きましたのは、何も造船所を見やうと思つて行つたのではない。實はグラスゴーの市制を見に行つたのであつて、幸に市長の好意に依つて色々調査することが出来たことであるのです。そこでラザベツクが例證に引いたことが、矢張り此グラスゴーであるのは至極尤である。ラザベツ

クの言ふのは斯う云ふのであります。グラスゴーに先年六百三十人程の悪童があつた。其の六百三十人の悪童と云ふものは、第一父親が非常に大酒飲であるか、母親がシミツタレであるか、兎に角両親の不道德不行儀の爲めに墮落した所の悪童であつたのである。けれども市が本當の行政をして行くには、悪童を其儘に打遣つて行くやうなことでは出来ない。悪童を矯正しなければならぬ。悪童は他日市民になるから嫩業にして矯正さねば本當の市制は行はれぬのである。良市民を拵へるには子供を善くしなければならぬと云ふので、六百三十人の子供の感化事業を計畫したのである。日本でも先年來感化院の計畫を色々聞くが、未だ餘り成績の擧つたことは承はらぬ。グラスゴーに於ては誠に感服する程旨く遣つて居る。どうして遣つたかと云ふと、其の不道德不行儀なる父親母親の手許から、即ち家庭から兒童を取離した。取離してさうしてグラスゴー市から少し離れた田舎に預けて、そこで幾年かの間教育して見たのであるが、六百三十人の子供の六百七人までは感化の效見えて、全く良い子供になつた。たゞ二十三人だけがどうしても感化の效が現はれなかつたと云ふことを報告されて居る。さうして見れば、惡い家庭に置いたからこそ悪童になつたのである。其の境遇を變へて立派に感化をすれば治ほるてないか。

即ち境遇論の勝利でないかと云ふことをラザベックが言つたのは耳新らしい話ではなからうかと私は思ふのであります。さう云ふ譯であるから立派な商業家を養成しやうと云ふのであるならば、即ち本當の商業的境遇を作ると云ふことが是がもう第一である。其處の商業界が信用の行はれた商業界であつて、商人等は苟くも悪むることをせぬと云ふ立派な商業境遇であれば、自然と商人は善くなる。それと同じ様に學校も一層教育的にして、立派に信用を重んじ誠實を重んじさす様になつたならば徳育は出来る。百聞一見に若かすと云ふが、一見よりも一行に若かすて、一度行つて見ると云ふことが第一である。周囲の空氣を治ほすと云ふことが商業道德を養ふ根本である。語を換へて言へば、各學校で修身倫理の百の説法よりも周囲を改正することが第一の問題である。斯う云ふ議論で、それ等に依つて得る所の目的は如何なるものであるかと申しますれば、商業學校を卒業した者が自分の道德上の概念に於て判然と決定した心を持つて居り、自分の行ふ行爲の仕方の上に判然たる決定を持つて居つて、決して苟くも少しの利益の爲めに眼がくらんでそれに左右せらるゝと云ふことなく、判断を誤まることなく、概念と行爲の上に決定する所があつたならば宜いのであると云ふことを縷々述べて居ります。至極面白い。併し更に

ラザベックは議論を進めて、斯の如き立派な道德教育をするにはどうしても宗教が根本にならなければならぬ。宗教の根本が無くてはどうしても所謂立派な境遇と云ふものは出来まいと思ふから、商業道德の根柢否一般の徳育の根柢も自分は宗教にあると云ふとを信ずる。唯奈何せん今の世には宗教を奉ぜざる人間が澤山ある未信者が澤山ある、此宗教を信ぜざる者には宗教教育を遣らうと言つても出来ないことである。仕方が無いから已むを得ず社會學即ちソシオロジーを以つて之に代へるのである。其の實例は即ち佛蘭西や日本が之れに當るのであると云ふことを言つたのであります。……成程日本では御承知の通り學校の徳育は全然宗教から離されて居るのであります。文部省の方針に於ては離されて居るのであります。佛蘭西も千八百八十二年即ち三十年以來さう云ふ風になつて居るので、日本は佛蘭西を真似たのであります。……が自分をして理想を言はしむれば、徳育の基礎は宗教になければならぬと云ふことを大きな聲をして述べたいのであります。是は近來の徳育論として聞くべきものもあつたので、餘程實のあるものであります。吾々も片唾を吞んで聞いたのであります。てそれで濟むのならばそれで宜い、何にも會議をして居る必要がない。所が其人が演説をして降りると段々反對論が出て

來た。其の反對に立ちましたのは誰であるかと云ふと、只今はブラグのラザベックであつたが、それに對するのは和蘭のボースと云ふ人、其の人が反對論に立つたのである。言ふのには、前辯士の御演説は至極御尤であると思ふ。學校は成るべく立派なる商業家を養成するやうに努めなければならぬ。即ち商業家の良習慣を養成しなければならぬと云ふことは御尤もである。殊に非常に大きな聲をして言つた、商業學校は其の生徒をして唯儲けると云ふことを教へるのが目的ではない。どんなに儲けるかと云ふ、其の儲け方の善悪をも教へなければならぬ。唯儲けさへすれば宜いのではない、如何にして儲けるかと云ふ儲け方の善悪を見ることが非常に必要であると信ずる。さう云ふ譯であるから、商業道德の必要と云ふことに就ては敢て前辯士に譲らないが、併し自分は商業道德と云ふ特別の、一科を設けると云ふことには反對致さうと云ふのである。ボースの此議論から言へば、我國で小學校中學校に修身倫理のあるのは大變な問題である。尤も我國でも此の事は廿年來問題になつて居るのである。……それでボースが言ふには商業道德を教へると云ふことは大切であるが、商業道德と云ふ一科を別に設けると云ふことはそれは不必要であると思ふ。唯一言すれば學校の空氣を今までのやうな専門學校的なる代りにも

少し教育的學校にしさへすれば、それで機能が擧がるのであるから、前辯士の議論に反對すると云ふことでありました。それから其の次には今度は奥地利の維納のネメセックと云ふ人が立つて、私も唯今のボース氏の言ふやうに矢張り商業道德科と云ふものを別に設けることには不賛成でございます。是は國語科に於て十分教へることが出来る。即ち讀み物に依つて良いものを讀ましてさへ置けば、自から德育が出来るものであると述べた。一寸諸君に御注意致しますが、日本でも是までも既に議論があるので、修身科の教科書を教へると國語の讀本を教へると云ふことは殆ど同じことになつて居り、修身の教授と國語科の教授とは動もすれば同一になつて居るとの非難が聞える。所がネメセックは修身を別置するの必要はない、今後修身科を教ふるには立派な讀み物に依つて教へたら宜いと云ふことを言つたものであります。其次に立ちましたのは獨逸のライプツヒのアドレルと云ふ人であり、此人の議論は又違つて居る。是から後の商業道德論と云ふものは經濟學の方で教ふべきものである。經濟學を根本とすべきものである。而して學校に於ては公民科と通信科と云ふ二つの課業で商業道德を教へたら宜いのである。公民科と云ふのは公民として立派な一のシチズンとして心得べきことを教へるので

ある。通信科と云ふのは手紙を書かすのである。此の手紙と云ふものが本當に人情に適ふて而も嘘は言はず御世辭は言はずと云ふやうな立派に書ける様になる事は至極實業家に必要である。手紙が其通りに書けるやうになれば、自ら禮式も覺え人情にも行き亘るから、先づ手紙の書きやうを教へることがそれが商業道德を教へる第一であると云ふことを言ふた。アドレルは高等商業學校か何かの教授であつて、相當の地位を占めて居る人である。

右様に大分議論が盛んに出て來たのであるから、私も一つ立つて自分の所信を述べやうと思つて居ると、漸く日本谷本君と云ふ順になつて來たのである。私は述べた。——私は日本の谷本でございます。今露西亞から旅して來たばかりであります。私は無論日本人であるから日本語で演説をさせて戴きたいのですが、それは此會に於ては禁ぜられ居るから、日本語は使ひませぬが、そこで他國言語は何でも少々遣りませ、無論上手ではないが英獨佛何でも遣ります。最も上手なのは日本語ぢやが、それは許されて居らぬから、下手ではあるけれども併しながら何でも話します。尤も此會は獨逸語と佛蘭西語とに限られて居るから、獨逸語と佛蘭西語と孰れにても諸君の註文通り話させうと、先づ大變な權幕で遣つた。所が佛蘭西語で遣つて呉れ

と云ふ註文であつたので、宜しいと……それから佛蘭西語で話した。實は佛蘭西語で話したのやら片言で話したのやら頗る怪しいものであつたけれども、皆は其最初の權幕に吞まれて仕舞つて、演説に對しては非常に喝采して呉れました。其晚宴會に行つたら皆に胸上げをせらるゝと云ふ騒であつた。それで私は二十分間ばかり話をしたのである。……先刻から色々名論卓説を承はつて結構である。結構はあるが、一體議論の根柢が極まつて居らないからどうの斯うのと云ふ争が出来て居ると思ふ。吾々の信ずる所では、倫理修身乃至商業道德科と云ふものを別に置くにしろ置かぬにしろ、それは第二の問題であつて、第一の問題は何を道德の根本とするか、と云ふことが極まつて居らなければならぬと思ふのである。それが分らぬものであるから色々御説が出来るんだらうと思ふ。私は深く信ずるのである。道德の根本特に商業道德の根本は一言で之れを言ふことが出来る。それはコンネィチヤス、ミユチユル、Commissance mutuel、平たく言へば互に知ると云ふことである。互に知つてさへ居ればさうすれば、決して惡いとは出來ない。平たい話が平素取引する雙方の人が互に人情を知つてさへ居れば不都合はせぬ。自分が不都合をするから先方も不都合をすると云ふことになる。取引するもの同志が互に能く人情を知つて

居りさへすれば決して不都合はないのである。それと同じことで失禮ながら西洋の人が日本に来て商賣をするに於てもどうも互に相知ると云ふことが缺けて居るから往々其の間に間違が起るのである。是れは日本人にも誠に悪いことがあつて耻入るのであるが、併し西洋人の側にも随分頓珍漢なことがあるから、畢竟互に相知ると云ふとが最も必要なことである。商業道德の根據は相互に識る、コンネーサンス、ミューチュエル、或はミューチュアル、アックエーションタンス即ち互に相知ると云ふことである。どうか此萬國商業會議と云ふことで互に寄つたことを機會として、今まで分らなかつたこと誤解して居つたことを互に知らすやうにし、それには互に各國の往來通信を盛に行ふやうにして行つたら宜からうと思ふ。又先刻來の御議論を承はつて見ると、何か倫理論には一の權威、オーソリテイと云ふものがあつて、それに依つて教へなければならぬと云ふことであつたが、日本には幸に教育勅語と云ふものが御極めになつて、臣民上下悉く是を道德上の規範にして行くことになつて居るから、我日本帝國では其點に就ては立派に行つて居ることである。それを萬國的にどうして宜いかと云ふことに就ては、色々御議論があるとして御尤もと思ふ。何は兎もあれ互に識り合ふと云ふとを基礎にせぬ道德教育は實際の道德教育では

あるまいと云ふことを論じまして、相當の賛成を得たのであります。

それから私の次に進んで出しましては獨逸のブランシエワイヒのシミットと云ふ人で、それで商業道德即ち修身倫理と云ふものを一の科として置くと云ふことはそれは善きことであるか善くないことであるかと云ふ問題に就て、此人は無用なりと云ふことを主張したのである。さうするとラザベックと云ふ人は是は是非とも別に置いて貰はなければならぬと主張したので、シミットとラザベックとの間に於て商業道德別置可否論が烈しく闘かはされたが、仕方が無いので議長が決を採りました。即ち商業道德科を別置すると云ふ議論と、それから別置しないと云ふ議論とに就て決を採るとにして、そこで、どうか商業道德科を別置するとは無用であると云ふに反對の意見に御賛成の人は擧手を願ひますと云ふことになつた。多數です。併し念の爲めに今一度決を取り直ほしませうと云ふのもう一遍ラザベック案に賛成の者の擧手を求めると今度は少數であつた。そこで到頭商業道德は別に科として設けて教へるかと云ふ議論に就ては、別に、一科として、置くを要せずと云ふとに昨年の會議で極まつたのである。是は商業道德のことであるけれども、一般教育上の問題としても、修身倫理の科を別置するかせぬかと云ふことに於て非常に大切な

問題であるから、或は諸君の御参考にならうと思つて、殊に精しく申上げたのであります。是に依つて萬國商業教育會議の形勢も十分御分りになつたと思ひます。

なほ右の議論より推及ぼして一つ私の考を述べて置きたい。是は單に商業學校ばかりではない、一般に修身教授の意見として御聞きを願ひたいのであります。私の考では矢張り修身科と云ふやうなもの、が別置せらるゝのは無用であらうと云ふ議論であるのです。此無用である、と云ふ議論は私は數年前、夙に主張をして居るのてあります。現に學習院では一時廢して仕舞つた。今はどうなつて居るか一寸記憶しませぬが、修身科を別置するとせぬとは二十年來の宿題であつて、既に私も夙に自分の意見として別置は無用であると云ふことを言つて居るのであります。今日の法令では別置せよと云ふことになつて居つて、小學校、中學校、高等學校皆修身科を別置して居る。して居る所でない、一昨年來ウンとやれと云ふことになつて、各種專門學校に於ても以前は僅か第一等級位だけに倫理科があつたのを、殊に大逆事件發生以來は、泥棒捕へて繩を縛ふと云ふ例の所謂泥繩流義であつたかどうか承知せぬが、周章して、倫理の時間を増し、二年生にも三年生にも倫理を課すると云ふことにし、現に神戸の高等商業學校でも今までは本科一年まで遣つて居つたのを、二年にも三

年にも課するやうになつたのであります。けれども東京高等商業學校などでは其頃の校長澤柳政太郎氏が頑として應じなかつたともあつさうな。實際修身科の別置と云ふことは無用であります。それで今日歐羅巴で最も進みたる中學改良論者の言ふ所を聞くと、總て教師が説教をすると云ふことはどうも往かぬと云ふのである。お父さんが説教をし、宣教師、牧師が説教をするのは職掌であるが、どうも教師が教場で説法をすることは工合が悪い。否小學校でならば御話位で済ませるが、中學校以上の學校になるとどうも教場での説法は工合の悪いものである。是は大分古い話であるが、私が大學を出て初めて山口の高等中學校の教授に任命せられて、さうして色々の科を擔任して居りましたが、其中で修身倫理の科を擔任して三年半ばかりも倫理を講じましたが、外の哲學を教へるとか心理學を教へると云ふ風の理窟を教へるのは面倒ではないが、朝講堂に生徒を集めて倫理の講義をするのはどうも變な者です。と云ふのは私も今では大分年を取り酒も久しく飲みませぬが、何分其頃は二十四五の若い時分であるから、随分酒も飲んだ方である。同僚と寄つて大酒を飲んで、さうして翌朝倫理の時間に出て酒を飲んで、は悪むと言ひたいが、何しろ前々大酒を飲んで來たのだから、さう云ふ時には顔が上がらぬ、(笑)生徒も最早高等

學校の生徒のことであるから、若くても十八九廿一二時には私などよりも上の者も居つたので、それ等の者はチャンと先生の内幕を知つて居るから、倫理の時間には誠に工合が悪るい。そこで私は其頃から餘程横着であつて、生徒に向つて、今日は色々話をし來つて、身體の衛生はテムベランスに由ると云ふことをしなければならぬ、併し自分等は諸君の知る通り非常な大酒家であつて毎々大に飲んで居る。是は自分の大に耻入ることであつて良心の咎める所である。併し酒を飲まぬからと言つてそればかりで善い譯でない。酒を飲まぬからテムベランスであるとは必しも言へぬ。餅を餘計食ふのもテムベランスでない。矢張り不道德なのである。何となれば餅に酔ふと云ふことはあるかないか知らぬが、胃を損し身體を損なふこと敢て酒に劣らぬ。酒を飲むことも悪るいが、餅をたら腹食ふことも宜しくない。諸君は僕の宅の前の饅頭屋などに毎日來て饅頭を食ふて居るが、強ちそれを咎めるのではない、たゞ少々控へたら宜からう、笑併し私が斯う言つただけでは我田引水と思ふから好い例を挙げやう、それは『百家説林』と云ふ書物の中に載せてあることであるが、夫の大和郡山の賢大夫柳里恭も夙に餅の毒の事を云つて居る云々と云ふて終つたが、さう云つた時にはどうも思はず冷汗が出た。是は小學校の先生ではさう云ふこと

はなからうが、中學校以上で倫理を教へなざる時は誰も多少覺のあることに極まつて居る。實際私等と同勤の先生で酷く借金をして居つた人がある。私は借金を最も罪惡であると思ふから、生れてから今日に至るまで未だ曾てしたことはない。此點に於ては公言して、憚からぬが、其時分の同僚で今立派になつて居る人で、米屋に借があつて市中の米屋一同の封鎖を蒙つた人さへあるさうな。今では大分立派な人になつて居らるゝから名は言はぬが、若し名を言つたら諸君が驚かれる位の人である。多分本人が此筆記でも讀まれた時には思ひ當つて一笑せらるゝと思ふが、若し其人が倫理を擔當して、生徒に向ひ、決して人間は負債をしてはならぬと云ふやうな説法をしなければならぬことに成つたとした時には、先生はどの位苦しいてありませうか、笑、さう云ふ次第であるから、切に説法はするなと云ふと、今日の中等教育改良論の一般の議論である。さすれば特に説法がましき講堂訓話は勿論、修身倫理科の別置は唯今日本ではそれを行へよと云ふことになつて居るが、學問上餘り賛成が出来ないと云ふことを申します。併しさればと言つて一切教へぬて宜いかと云ふに、それには補ふに三つの注意が要る。一つは人間の行と云ふことに關して自ら昔の人のしたことに善いことがあるならば、それを纏めて話して聞かせる、又昔の人

の経験したこと、先哲の行つたことを秩序を纏めて話をして聞かせると云ふことは必ずしも悪いことでない。私が山口高等學校の修身科の先生を止めてから以來どんなことがあつても修身倫理の先生はしまいと腹を極めて、二十二年間は遣つて居らぬのである。尤も今現に神戸高等商業學校の倫理の教授をして居るのはどうして遣つて居るのかと申されますと、これは彼の學校に於て三年間講義をしたものの筆記が『商業適用新道德』と云ふ題で出版されて居りますから、あれを見ても御分りになります。私は斯う云ふ風に遣つて居る。私は諸君に説法をするのでない、私は人の言つたことや自分の考へたことを取纏めて御話するのであるから、諸君の中で善いと思へば参考にして呉れ、諸君は私の述べることに就て善いことか悪いことを考へる自由を持つて居るのであるから、決して私の言ふ説のみが何處までも正しいと強制する必要はない。唯諸君の参考に供するのです。諸君も既に廿歳を過ぎた大人である、併し私は諸君より一日の長あるものであるから、唯自分が先哲の言行に就て知れる所、自分の平素信ずる所を参考に供する迄に申すのである。斯う云ふ譯であるの講義筆記も出來て居るのである。第二番に御望みしますとは是れも西洋のことであるが、修身科倫理科と云ふ時間を別に置くよりも、科外講義とするこ

とが一番宜からう。それは學校の校長なり教師なりが時々立つて色々自分の経験談なり感想談を述べるが宜からう。殊に望む所は名士を呼ぶことである。併し其名士と云ふものも殊に望むのは其學校を卒業して、其學校の生徒が羨やむ程の出世をして居ると云ふやうな舊卒業生があるならば、それを呼んで來て屢々打明話をして貰ふが一番宜からう。と斯う云ふことを申して居るが、是は實に實際上の注意であると思ふ。其外第三には教師と生徒とが極く親しく交はつて、教場内に於ても教場外に於ても、唯事柄を教へたら濟むと云ふのでなく、相談相手となり忠告者となつて行くやうな風にしたら宜からうと思ふ。斯ういふ風なことが今日歐羅巴で唱へて居りまする最も進んだ中等教育改良論であつて、是も此度土産として持つて歸つて大學でも其書物を讀ませて居るのであるが、これは佛蘭西人フレイリーの書いたもので、『中等學童論』と云ふ書物です。それを大學生に只今輪講させて居るから、併せて御披露申して置きます。

然らば道德教育は如何なる方針を立てて行つたならば宜いかと云ふことを御話します。唯今は方法を御話したのであるが、今度は方針である。申すまでもなく日本には教育勅語が煥發になつて居るから、是は宗旨の如何を問はず、信仰の如何を問

はず總て、是に依つて倫理修身を極めて行かなければならぬことになつて居る。此事に就ては私は維納の會議に行つた時でも大きな聲で言つたこととあります。是はそれで申しやうが外に無いのであります。併し色々立入つた議論になります。又元のラザベックの議論に戻りたい。ラザベックの議論は斯ふ云ふのであつた。一體今の人間は不心得である。其不心得を直ほさなければ商業道徳は出来ぬ。のみならず一般の道徳が出来ぬ。此の處は能く御聞きを願ひます。不心得とはどう云ふことであるかと云ふと、今日の人間は自然——天然に打勝つと云ふことを以て目的として居る。天然に打勝つと云ふことを目的として居るから、自ら謙遜の美德を失ふのである。謙遜の美德を失ふから利己主義になるのである。然かも打勝ち終せれば善いのであるけれども、打勝つことが出来ないので失望した場合には、無政府主義になるのである。何れも其の根本は人間の力を以て自然に打勝たうとすることから起る誤謬であるから、吾々は外に勸める、どうか教育の方針は古に、戻れと云ふことである。古の美風に立戻ると云ふことを望むのである。是れは餘程保守的な意見であるが、併し一應の道理があると思ふ。けれども若しラザベックの通り行つたならば、先日も御話した文明は自然に打勝つのである、自然に打勝つて行くのが

文明であると云ふ事とは正反對になるのである。語を換へればラザベックは吾々が文明にならう文明にならうと云ふから自ら謙遜の美德を失つて來るのである、文明などは除けて古に立戻れと云ふのであるが、是は成程無難な教である。けれども文明排斥が今果して出来るか出来ぬか考へて見れば分る。私はそんなとは申したくない。矢張り自然に打勝ち文明を進めて行けと云ふことを申します。而して吾々の唱へる所では二つの基礎の上に倫理道徳を置きたいと云ふことを申したのでございます。それはどう云ふ基礎かと云ふと、第一番は常識の上に道徳は置くやうにして貰ひたい。それからもう一つは宗教の上に倫理道徳は置くやうにして貰ひたい。常識に依つて方針を極め、宗教に依つて基礎を固たくすると云ふことの外は、本當の倫理修身の教は無の様である。日本には幸に教育勅語が下し玉はつてあるが、無論教育勅語は宗教と背くものでないから、之れに依つて方針を定め、なほ又宗教に依つて基礎を固めて行つたならば宜からうと思ふ。又此教育勅語が少しも常識に背くと云ふことが無いから、之と併せて常識に依つて方針を定めれば宜い。さて其常識とは如何なるものであるか。私は曾て此處で『孟子と新教育』に就て御話をした際に常識に就て七箇條の解釋を附けて御話をした。其頃御出席の御方々

は覺えて居らるゝだらうと思ひますが、…(筆記六、盟館より出版)…常識とは第一番目は普通教育と云ふ意味に使ふ、それは悪い。第二には常識とは普通の知識じやと云ふ、それも悪い。第三番目には常識とは書物に依らずして経験に依つて得た知識であると云ふ、それも未だ當らぬのであつて。第四番目には常識とは突飛な知識ではない、當り前の知識ぢやといふ。それも尤もぢやけれども、まだ當らぬのである。第五番目には病的でない知識を言ひ、順當の知識を言ふと云ふのであり升が、それもまだ當らぬ。第六番目には常識と云ふのは其社會の昔からの故俗習慣、仕來り慣例と云ふやうなことを能く心得て居るのを言ふと云ふのである。それもまだ十分でない。自分の考へでは常識と云ふとは獨逸の語のメンシエンケンネル Menschen-Kenner と云ふことを言ふのであると御話をしたとてあります。メンシエンケンネルと云ふことは人を知る、と云ふことである。人情を知る、と云ふことである。理窟や書物の上の沙汰でなくて、人情を知ると云ふことである、と云ふことを御話したのであります。今回維納の學會に臨んで、商業道德の根本的基礎はコンネーサンス、ミユチユエル即ち相互に知ると云ふことであると云ふことを述べて來ましたが、此コンネーサンス、ミユチユエルは獨逸の語のメンシエンケンネルに當る。即ち常識で

ある。即ち私が此度維納に行つて喧ましく言つて來たのは、あれは實は全く一昨年の冬此倉敷大講演會で述べたのを反復したに過ぎぬのであります。常識の解釋としては先達て東京で出ました『實業の日本』に色々な説がありました。丁度十一月十五日頃と記憶しますが、常識に關して大隈伯澁澤男を初めとして色々な人の解釋がありましたが、就中私の手を拍つて喜んだのは慶應義塾の塾長鎌田榮吉君の常識に對する解釋が誠に面白く言はれて居たこととあります。其説に依ると、常識とは何も六づかしいことではないのである。ものの分別と云ふことである。事物の輕重を知ると云ふことである。どんなに理窟が分つて居つても、理窟一方に偏すればそれは即ち輕重を知らぬのである。なんぼ西洋の禮儀や何かを澤山知つて居つても、場所に臨んだ時に判斷が附かぬ人、分別が附かぬ人は學識あつて常識無き人である。即ち常識は物の分別と云ふことであると言つて居られたが、是は誠に尤もであると思ふ。私は此語を借りて斯う云ふことを申したい、倫理修身の教育趣意、別しては商業道德の根本は分別を養ふと云ふことの外にないのである。分別は知識ではないのであります。分別と云ふて一種の感、じてあります。言ふに言はれぬ感、じてあります。英語では常識のことをコンモン、センスと申します。コンモンと云ふは

常であつて、センスは從來は識と譯したのであるが、識と云ふと知識のやうに聞えて悪るい、實は其意味ではないのであります。此センスと云ふのは佛法の所謂識から取つたのであつて、佛法の方では六識とか又六づかしく言ふと八識とか云ふことを言ふ。其識と云ふのはどう云ふことを言ふのかと云ふと、眼耳鼻舌身之れを佛教では五識と云ふ、それに意が這入るから六識となる。此眼耳鼻舌身と云ふ五識は是は吾々が言ふ五官である、其事を佛法では五識と言ふ。此の五官と云ふことを英語ではフワイブ、センスと云ふ、それであるからセンスは識になる。是は誠に良い翻譯が付いて居るのである。併しそれを識と云ふことから知識と云ふやうに誤解して、普通教育が即ち常識ぢやなどと云ふのは間違である。學校で相當の教育を受けて、書も描く、美術も旨い、珠算も遣る、手工も遣る、けれども分別が一寸も付かぬと云ふ人が往々ある。普通教育を受けて居りますからと言つても普通教育は分別の保證にならない。分別は別である。分別はセンスである。是を別譯して見れば眼である、コンモンセンスと云ふのは私をして言はしむれば心の眼である。肉體の眼は開いて居るけれども、さて心の眼が開いて居らぬから、慾に迷つたり總て分別の無いことをするのである。コンモンセンスは心眼を明かにするのであると云ふことに解釋した

ならば宜いのであつて、倫理修身の教、商業道德の教は心眼を明かにして分別の付くやうにしたならば宜い。されば其の分別を付けると云ふことは如何なることであるかと云ふと、第一に總て極端に走ることを避けて貰ひたい。さうして又第二には人間は何時も相互である、と云ふことを覚えて居て貰ひたい。極端に走らずに相互であると云ふことが能く分つて行へて行つたならば、それは分別の付くことに極まつて居るのである。分別の付く人と云ふのは何時も物を極端まで考へるやうなことの無い人か、左なくば相み互と云ふことを考へて自分勝手なことをせぬ人である。そこで更に私は茲に三の要求を致すのであります。今後の商業道德はそれに依つて立つて行くものである。それはどう云ふことであるかと云ふと、第一番はソシヤル、サーヴキスこれを譯して社會的給仕、或は外の語で言ふと奉公である。奉公と云ふとおさんどんや丁稚をするやうに思ふが、奉公と云ふのは元來さう云ふ意味ではなく、公は社會と云ふことである、公の爲め即ち社會の爲めに何等か役に立ちますのがソシヤル、サーヴキスで、奉公である。例へば私が一枚の着物を着て居る、此着物は倫敦のブルと云ふ名高い洋服屋で拵へたのであるが、併し實はブルが拵へたのではなくて、毛織屋が遠方から獸毛を買つて來て織つたのである。而して其獸

毛はどうして取つたと云ふやうに考へても行つたら、私が此の一枚の着物を着るやうには何人の奉公で出来て居るか分らぬのである。よく人が言ふ、一個の米粒でも百姓が粒々辛苦汗水を垂した結果であるから、粗末にしてはならぬと云ふが、何も米ばかりがさうと云ふ譯でなく、一枚の着物でも何十人と云ふものが汗水垂らした結果である。御米を粗末にして悪いならば着物も粗末にしてもならぬ。好い着物を着ることは宜いが、其の代り此方も亦他人に向つて奉公を返して行かなければならぬ。自分は世の中に何等の奉公をせぬで人に奉公ばかりさせて居る者が一番大悪人である。自分が人に向つて十分の奉公をして居るならば、人からも随分奉公をして貰つて宜い譯である。例へば私は京都に居る時に二人曳の車で走り廻つて居ると、何だ、贅澤なと云ふ人があるか知らぬが、併し此方彼方を廻はるのに一人曳では十分に世の中に奉公が出来ぬからである。自分が奉公をして居るから、其代りに人から奉公をして貰ふ。是が今後の商業の道德である。是をもう一つの語で言ふならば即ちソリダリテである。ソリダリテは先日も申した様に、自分の利益を忘れず、而して世間全體のことに注意せよと云ふことである。それをもう一つ向ふへ行つたならば、近頃大分彼方此方て言ふやうになつた例の *Pragmatism* と云ふことに

なる。此ブラグマチズムと云ふ語は數年來學者の口に上つて来て、既に此の倉敷講演に於ても第一回の講演の時に此處で喧ましく申したのである。それは學者の議論であつて随分善惡の評もあつたが、今回再び彼方へ行つて色々書物を取り寄せて来た結果、矢張りブラグマチズムと云ふ議論が一般の道德の教の根本としては盛に行はれて来て居ると云ふことを認めたのであります。英吉利や佛蘭西で買ふた書物にはブラグマチズムの書物が多くあり、それから亞米利加で買ふた書物にはソーシャル、サーヴキスのことを書いた書物が多いのである。随つて私は今度日本に歸つてから、神戸高等商業學校に於ては一學期間はソーシャル、サーヴキスを説き、今又現にブラグマチズムを説いて居る。私は是から日本の實業教育、商業教育は今言つたソーシャル、サーヴキス。ソリダリテ。それからブラグマチズム、此三つで行かなければならぬ。其三つに適つたのが即ち常識であると云ふことを言ふのであります。

ブラグマチズムと云ふのはどう云ふことを言ふのかと云ふことに就ては諸君も御承知であるが、平たく言へば斯うである。唯單に哲學上の理窟を以て倫理の方針を極めやうと云ふ理論派でもなく、さればとて理窟はどうでも宜い、成功さへすれば宜

い、成功とは金を儲けるとであると云ふやうな結果のみを喋々する結果派でもなく、又唯修養さへすれば宜い、人格を修養すれば宜い、修養は『論語』を読めば出来ると云ふやうな實際のみを貴び理窟を輕んずる修養派でもない。理窟に適ひ實際にも適ひ、總てのことが纏まつたのがブラグマチズムである。語を換へて言へば斯う云ふのである、今までの哲學は智を主にしたのである。例へば佛教にしてもさうである。觀念の眼を開いて云々と云ふやうに轉迷開悟と云ふことは詰り智恵であつた。佛陀には色々慈悲の形容詞も付けてある、併しながら佛智不思議と云ふやうなことを言つて、智恵と云ふことを重もにしたが、ブラグマチズムはさうでない。人間は智恵だけでは發達せぬ。又理窟だけではどうも往かない。即ち此智と情と意と三つが兼ねて居らなければならぬのである。殊に道徳は情が立派な人でなければ出来ぬのである。又情が立派であつても唯人柄が善い、心柄が優さしいと云ふのでは道徳にならぬので、それを實行する人でなければ道徳にはならぬのである。だから智恵もあり更に情があり、而して善いと信じたことは大なり小なり行ふと云ふ智と情と意と此三つを圓滿に兼ねると云ふのが道徳上の方針である。斯う云ふのがブラグマチズムであります。今までの主智派でもなく、主行派でもなく、主智、主行を兼ねて

殊に感情を重もな材料として立てる、是がブラグマチズムの教であり升。在來の哲學に於ては兎角に情を嫌つて、情は人を迷はすものであるから、情を捨て智に依り皆靜かならんことを勧めた。それは甚だ面白くない。なほ詳しく申しますと、一體人の目的には二つあると云ふのです。古い哲學では皆靜を目的にした。佛法などでも坐禪を組んで寂靜三昧に入ると云ふやうなことを言つた位である。所が又成功論を説く人になると、何でも働けば宜い。働き廻はれ、即ち動けと云ふことを主にした。併しブラグマチズムは靜にあらざ動にあらざ。靜中動、動中靜、靜なる中に動く所あり、動く中に靜なる所あることがブラグマチズムであると云ふとが出来る。時間がありませんから詳しいことは御話が出来ませぬが、一寸念の爲めに言ふて見ると、西洋の哲學で昔のプラトンの哲學近頃で言ふと獨逸のカントの哲學は靜の哲學である。それから獨逸でヘーゲルと云ふ人の哲學、又英吉利の進化論の大家のダーギンと云ふ人の哲學は是は動の哲學である。世の中の眞理は靜かなものであると云ふ見方と、眞理は動くものであると云ふ見方と二つある。今のブラグマチズムでは動くと思れば靜かであり、靜かと思れば動く。靜中動、動中靜を兼ねるものであると云ふことを今ブラグマチズムは喧ましく言ふのである。是はどう云ふ人が言ふ

かといへば色々な人があるのでありますが、英人のゼームスなどと云ふ人は大層此事を喧しく言ふのである。昔漢の高祖が或時蕭何韓信などと云ふ人々を寄せて、前達は皆名將名相と思ふが、わしを人がどう思つて居るだらうと問ふて見た。所が、其時皆の者が將に將たる才のある人であると答へたと云ふ話がある。將に將たるの才とはどう云ふとか少し不審であつた。所が尙ほ近頃になつて不審が出来たのは、東郷大將など云ふ人はどんな人であるかと云ふ事である。固より東郷大將は立派な人であると承知しますけれども、さして東郷大將を學者とも思はぬ、東郷大將を猛將とも思はぬ、東郷大將が萬難を冒して大砲をズドン／＼と討つ人とも思はぬ、又策戦計畫に非常に長じた人とも思はぬ、大砲を討つ人は大砲を討つて別にあり、又策戦計畫に就ては參謀官と云ふものがある。東郷大將は無口な人である、一向物を言はぬ、一見すれば無能の人のやうに思へる位である。其東郷大將が日露戦争の際日本大海戦に於て大勝利を博せられたのは、是は何が所以であるかと云ふと、東郷大將は將に將たるの才ある人であるからであらう。一體大將を分けて猛將とそれから智將とするならば、韓信と云ふ人は是は猛將であつて、張良などは智將であつた。漢の高祖は智將でもなければ猛將でもない、即ち將に將たるの人であつた。東郷大

將は智將でもなければ猛將でもないけれど、將に將たるの人である。是は前申した靜と動との關係に當嵌めて見ると直ぐ分ると思ふ。それはどう當るかと云ふと、靜の勝つた人は是は智將、動の勝つた人は是は猛將であると思ふ。それに將に將たる人と云ふのは動中靜、靜中動の妙味を得た人であるのです。是は吾々て言ふてもさうです。學者と云ふものは靜なのです。所が才子と云ふものが世の中にある、あれば動に當るのです。此靜中動、動中靜を兼ねると云ふことがブラグマチズムの説く所である。是で東洋の教と西洋の教と、ピッタリ合はう様になつて來たと云ふことは、諸君の御參考になると思ふ。

それでは宗教はどうかと云ふと、宗教も亦さうである。ブラグマチック、レリジヨン即ちブラグマチズムに依つた宗教でなければならぬのであつて、餘り一方に偏して仕舞ふのは困るので、其處は智情意の三つを圓滿に兼ね、眞俗二諦を相兼ねて行くと云ふ、此方針は實に動かすべからざる方針であると思ひます。又それ等を以て道德の根據と思ふのであります。

最後になほ商業教育に、何にか補足になることがないのであるかと云ふと、それは經濟學と云ふものがある。それに就て一言附加へて置きたい。それは萬國商業教

育會議の時にも經濟學が入用であるかと云ふことに就て色々問題があつたのでありまして、總ての學校に於て經濟學を置くやうにせよと云ふことになつた。又大學に於ては商品學、商品見本學と云ふやうなものは附贅にして宜いのであつて、矢張り經濟學統計學を基礎にせよ、簿記を習ふ代りに統計に依つて遣れと云ふ風に申して居た位であるから、經濟學の必要が分ります。私昨年英吉利へ行きましてケムブリッヂの方を參觀しました時に、ケムブリッヂに夏期講習會があつた。其夏期講習會は何であるかと言へば職工の爲めにした講習會であつた。職工が兎角不平を言ふて同盟罷工をし、甚だしきは要らぬ亂暴をするやうになるから、それを防ぐのにどうしやうかと工風したが、ケムブリッヂ、オックスフォード大學の有名なる經濟學の先生を呼んで、職工に經濟學の根本道理を聞かすのが一番職工をして靜かに其業に樂ましむる所以であると云ふことを言つて居つた。さうして其成績も非常に好成績であつたと云ふことを聞きました。故に私は最後には倫理修身の教は無論教育勅語を以て標的とし、而して常識に依つてそれを活用し、宗教に依て以て方針を定める。而して其方針はソーシヤル、サイジキス。ソリダリテ。ブラグマチズム此三つである上に、なほ社會經濟を知るやうにしなければならぬ。さうなれば亂暴な社會主

義、無政府主義などは起らないと思ふのであります。色々話が長うなりましたが今回の講演は是て措くことに致します。

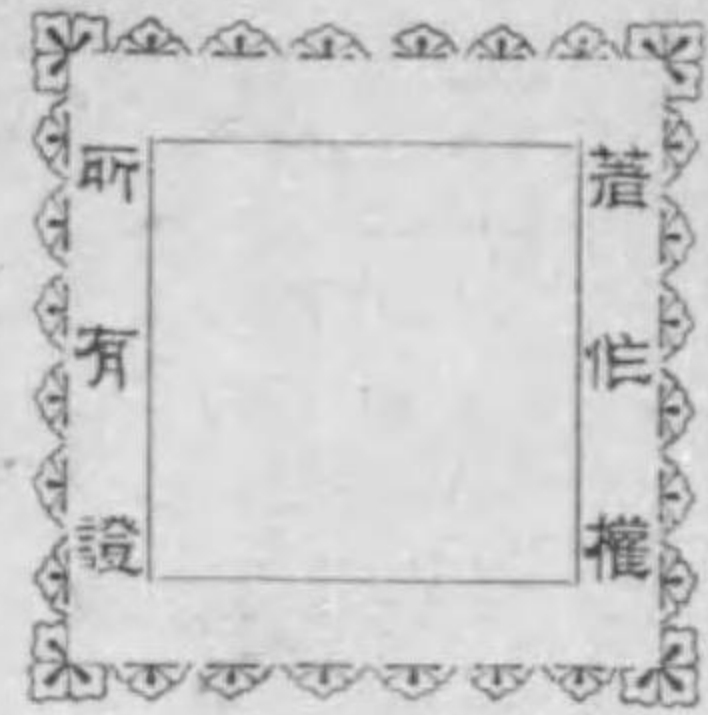
速記者 山田都一郎
松川 梅賢

洋行土産談 終



大正二年五月十四日印刷
大正二年五月十七日發行

洋行土產談
定價金三圓七十錢



發行所

特約大販賣所

電話問屋浪花二七六四番 振替口座東京一二五五〇番

合資會社 六盟館

東京市日本橋區鐵砲町三番地

著者 谷本富

發行者 東京市日本橋區鐵砲町三番地合資會社 六盟館

右代表者 杉本七百丸

印刷者 東京市京橋區西紺屋町廿七番地 佐久間衡治

大阪市南區心齋橋筋一丁目 電話問屋南九番 振替口座大阪四三三番 村文海堂

IX60

會社 六 盟 館
 出版圖書
 大販賣所

東京市京橋區 南傳馬町二丁目 目 黑 甚 七
 電話京橋二一六三番 振替口座東京二八〇九番
 東京市日本橋區 鐵砲町 榊 原 友 吉
 電話浪花三三二二番 振替口座東京三〇九〇番
 東京市日本橋區 本石町二丁目 杉 本 七 百 丸
 電話本局一六九八番 振替口座東京五六一三番
 長野市大門町 西 澤 喜 太 郎
 電話長野一二四番 振替口座東京一〇七〇番
 長岡市表四ノ町 目 黑 十 郎
 電話長岡一八番 振替口座東京三六一九番

終

